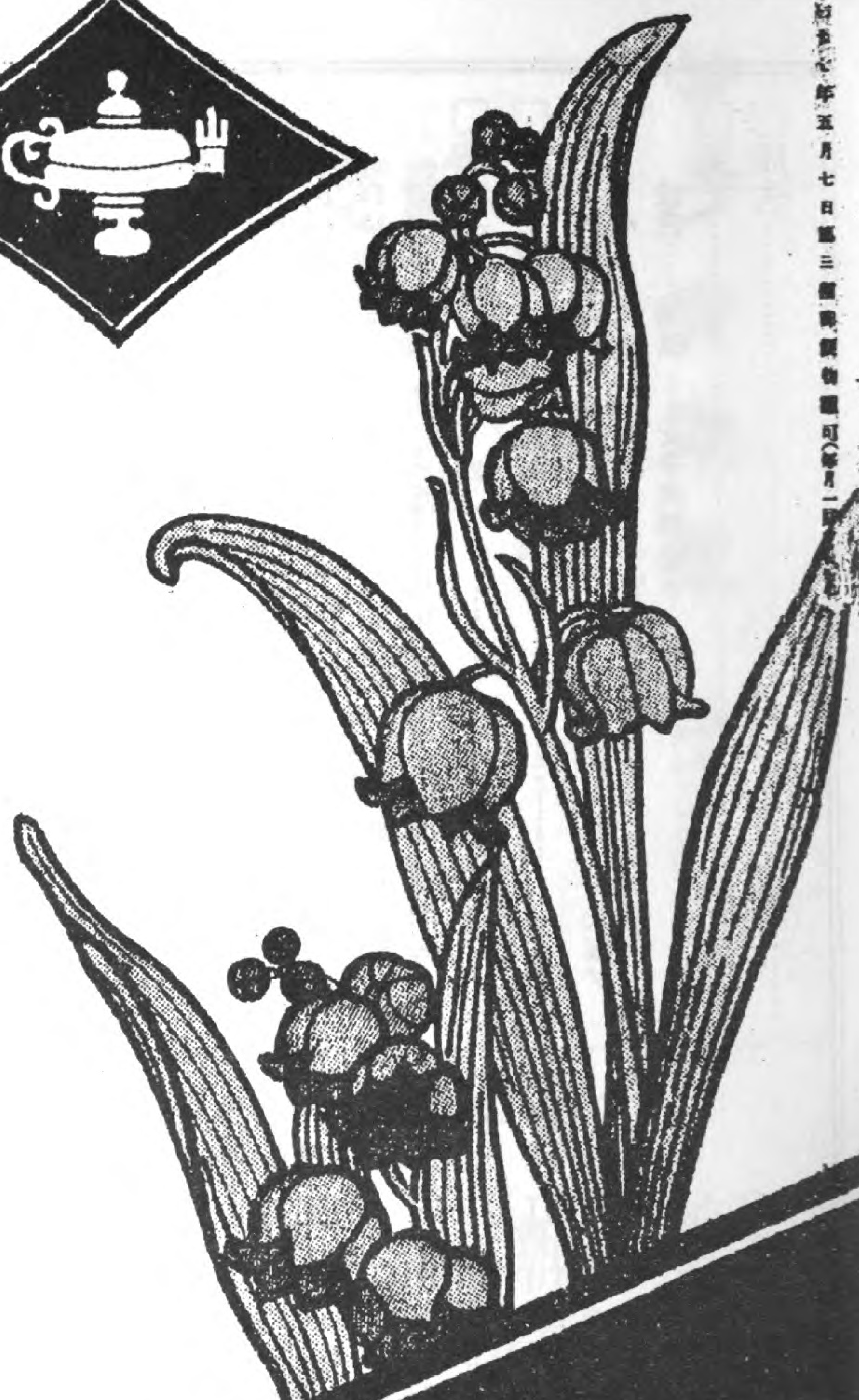
明治[illegible]年五月七日第三種郵便物認可（毎月一回[illegible]）



女子青年界

第十三巻
第一號

要目

女子青年會第十三巻第一號

目次

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XIII　　January 1916　　Number 1

新天新地

我儕約束によつて新しき天と新しき地を望み待てり。（ペテロ後三ノ十三）

見よ、我新しき事をなさん驟て起るべし。（イザヤ書四十三ノ十九）

見よ、我萬物を新にせん。（モクシ錄二十一ノ五）

見よ、我新しき天と新しき地とを創造す。（イザヤ書六十五ノ十七）

我新しき天と新しき地を見たり、先の天と先の地は既に過去り海も亦有ることとなし。（モクシ錄二十一ノ一）

我聖城なる新しきエルサレム備整ひ神の所を出て天より降るを見る、其狀は新婦その新郎を迎へてために修飾たるが如し。（モクシ錄二十一ノ二）

新生の人

人若し新に生れずば神の國を見ること能はじ。（ヨハネ三ノ三）

彼我儕が行し所の義しき功に由ず唯矜恤に循ひ重生の洗と靈に由て新にする事を以て我儕を救へり。（テトス三ノ五）

是故に人キリストに在る時は新に造られたるものなり舊は去りて皆新しく作るなり。（コリント後五ノ十七）

彼は我儕の和なり、二者を一となし寃仇となる隔の籬を毀ち、律法の中に命する所の法を其の肉體にて廢せり、蓋は二者を己に聯ね之を一の新しき人に造りて和かしむ。（エペソ二ノ十五）

それイエスキリストに於ては割禮を受るも受けさるも益なく、唯新に造られし者のみ益あり。（ガラテ六ノ十五）

新年の覺悟

今や歐洲を始め世界の多くの國々は戰爭の渦中に捲き込まれて居る。クリスマスもお正月も此の動亂の中に包まれて、樂しいクリスマスやお正月も全く悲しい痛ましい話と事實で充ちて居る。このやうな動亂の間に矢張り其の仲間入をもして居る此の日本に在つて平和と喜悦の空氣に浴して此の新しい年を迎へる事が出來たのは實に幸福なことであつて感謝するに餘りあることと思ふ。

しかし、元來人生は戰爭場であつて人間はこれ戰爭者である。もとより、今日の歐洲に於てやつて居るやうな殺伐極りなき戰爭は忌むべく厭ふべきものであつて、吾人の爲すべきはずでないことは明な事であるけれども、戰爭といつても決して斯かる目に餘るやうな慘憺たるものばかりではない。私共は實に平和の間に於ても尙戰はねばならぬ場合に立つて居る。此の意味に於て未だ嘗て戰爭から離れた新年に際會したことはないのである。そしてそれは如何なる戰爭であるかといへば、言ふまでもなく基督の國を建設するための戰爭である。

此の世の中には不斷二個の潮流が流れて居る、そしてそれが何時でも相戰つて居る。其の二個の潮流といふのは、善と惡、義と不義の二つの勢である。言ひ換えれば此の世は義と不義との戰爭場であつて、私共はこの有らゆる不義罪惡の勢力を撲滅して正義にして仁愛なる新天新地の發現を待望する戰爭を繼續して今日に至つたものであつて、更に一層の奮鬪と善戰を今後の戰場と試みねばならないのである。

今や私共は今茲大正五年の新しき戰爭場に立つたのである。そして物質的勢力の跋扈、生活問題の困難、思想界の亂調、惡風俗の波及、吾人の敵は眼前に雲の如くである。眞に私共は大なる決心と勇氣を以て結束して立たねばならぬ時である。知らず新年頭に於ける同志諸姉の覺悟と決心は如何でございますか。

（ま、や）

必要なる一事

地位の高下を問はず、仕事の大小に拘らず、自分の任務を、最も、眞面目に、忠實に、盡す人ほど貴い者はありますまい。かゝる人に接すると一種の權威に觸れるやうな心地がします。所謂大厦高樓に在つて酒池肉林に飽いて居る公侯貴人を見ても、只驚異の眼こそ見張れ、別に、尊敬の念の湧かない場合もあるのに、自分の選ばれたる立場に於てその任務を孜々として忠實に、勇敢に盡して居る人に接すると中心自ら尊敬の念の起るのを禁じ得ない場合が多いのであります。かつて、或村の役場に、感心な小使が有るといふことを聞きましたから、何時か良い機會を得て、一度、會つて見たいと永く心に祈つて居りました。所が或日恰度、その役場へ用務を帶びて參ることになりましたので與へられたる機會を喜び一通り要件丈を濟まして置いて、さて件の小使に會ひ、且、彼のことについて詳しく聞くことが出來ました。年の頃、五十歳位、名を山口常吉といひ、同役場に勤續すること二十年以上であります。職務を盡すこと誠に、忠實で日々の小用達の外には役場内外の掃除は勿論、諸帳簿の綴込整理等は一切彼の引受けて居る所であります。その上、村人の中に租稅を怠る者があると、彼は夜間廻つて、懇に諭し、時々は彼自ら立替へて遣つたこともあるといふことであります。勿論、少額の場合ではありませう。彼の親切心に感じて、今は村人の中に一人の滯納者も出なくなつたとのことであります。彼の住居は役場の直ぐ後方に在るといふので役場の人に案内を乞ひ、斯の小義人の家庭に敬意を表せんものと訪れました家は小さなもので壁は落ちて骨が見え、疊はお粗末な流球表であります。敬すべき義人よ、汝は役場の手入に暇あるも、自己の居宅に手入れするの暇なきことかと心に思ひました。酒などは一滴も用ひず、妻と小供三人、一家五人の暮しで妻も至極氣立てよく一家揃つて村のため役場の爲めに盡すといふこと

であります。彼等は地位相應に必要なる働をして居ります、必要といふ點に於ては何人も一指定染めることも出來ますまい。この意味に於て彼等の生涯は眞に、充實して居ります、浮足でなく、空虚でなく滿ち〳〵として居ります。從つて心中自ら一種の權威が備はるのでありませう。われらはその權威に觸れたのでせう、滿腔の敬意を表はさない譯には行きませんでした。何人も必要なる生涯といふ點に於て彼等に學び度いものであります。新島襄先生は、かつて嘆じて、嗚呼、われらは、日々、如何に多くの無益なることを考へ、且つ、行ひつゝあることよ、といはれたさうであります。凡人たるわれらはこの感を深うすること、一層甚しいものがあります。人の爲め、世の爲めに、今少しく有益なることが考へられ、今少し、有益なる行ひが、出來たらばと思ふことが、屢々あります。併しながら、思ふに、われらの欲望は、餘りに、大き過ぎるのではありますまいか。われらの望みは分不相應なのではありますまいか。假令、大なる働き、澤山の働きは出來ないにしても世の爲め人の爲めに小いながらも必要なる一事位は何人にも出來やうと思ひます。われらの言行の中には大海に一滴を注ぐに類したやうなこともありませう。けれども洋々たる大海も、もとこれ鳥も通はぬ山奥の木の葉の下を潛る一滴々々の集積であることを思ひましたらば自分の投ずる一滴が決して不必要なるものでない。否、大海を成す一要素であると思ふことであります。嗚呼、われ小なり。わが力弱し。されど、われ、必要なる一事を爲し得、とはわれらの切なる心事であんます。若し、われらが日々に、また年々に、必要なる一事々々を積んで行くことが出來たならば必要なる一事の連鎖は、やがて、われらが全生涯を織りなす綾となり、見る目まばゆき必要なる貴き生涯となるのではありますまいか。大正五年に於て、われらは幾つの連鎖を結ぶことが出來ませうか。（F）

總幹事の更任

井深花子

今回我が日本基督敎女子青年會は永く本部の總幹事として盡力せられた、ミス、マクドナルドより申出の辭意を容れて、新に東京基督敎女子青年會に働かれたミス、マシウを總幹事として本部に迎ふることになりました。

ミス、マクドナルドが基督敎女子青年會を日本に於て組織したいといふ希望を以て來朝せられたのは今より十二年前即ち明治三十七年の冬のことでありましたが、其の時は其の一年程前に最初の幹事ミス、モリソンが同じ希望と目的を以て日本へ來られて、僅々一の聖書の組が出來て居たばかりで、まだ女子青年會の組織とか働とかいふ程のものはなかつたのであります。處がミス、モリソンは日本との縁が薄くて在留せられること僅に一年餘で、病を得て歸國せらるゝの止むを得ない、事情となりました。其の後の女子青年會の事業は、ミス、マクドナルドが萬事を一身に引受けて創業の局に當つてお働きになつたのであります。そして明治三十八年の冬になつて最初の基督敎女子青年會が生れましたが、それは即ち今の東京基督敎女子青年會で御座います。

爾來月日の經つのは長いやうでも短いもので既に十年の日子を重ねましたが、其の間に漸次各市或は各學校に女子青年會の組織が出來て、それが聯合して日本基督敎女子青年會となり、現に日本に於ける婦人の大なる團體の一に數へられるやうになつて、支部としては市部青年會三學生青年會二十を有し、會員は總數三千に近い團體となりました。其の事業の方面から見ると、東京だけでも、三個の女子寄宿舍の設備、旅行者の友の働、社會部には幼稚園を設くると共に、其の兒童の家庭の傳道を始め、毎年夏期修養會の開設、臨時事業としては神田の新會館の建築等、隨分兩手指を屈するも餘りあるものを經營し、或は現に經營しつゝあるのでありますが、更に

全國各支部が有志聖書研究の組を始め智德修養のためにせる諸種の事業、日曜學校、有職婦人のため、職工女等に對しての働、其他慈善傳道の事業等を擧げ來らば、實に豫想外の發展といはねばならないのであります。そして、日本女子青年會が此のやうな有様にまで發展した事を回顧して見ると、大にも小にも、ミス、マクドナルドの干與せられなかつたものは殆ど一として無かつたといつてよろしいのであります。

勿論、基督教女子青年會の事業は、其の組織の上からして何事にも委員の手と思慮を煩はさずしては成立たないのであります。女子青年會の今日の如き進歩と發展は即ち委員の方々を始め會員及同情者の盡力に因るといふ事は申す迄もない事でありますが抑も亦ミス、マクドナルドが創業に手腕ある人であつて、能く其の時代の困難に堪へ、明快なる頭腦によつて事に當り、能く謀り能く斷じ、而して能く處理せられたのに待つ所が多いといふ事は明で、誰の目にも其の功勞は見のがすことの出來ない確實な事柄であらうと信じます。

私共は斯くの如き好總幹事を失ふことは、會の上からいへば直接に受ける非常な損失であり、私共今日まで互に相携へて仕事を共にして來たものからいへば全く殘念に堪へない心が致します。しかしミス、マクドナルドの辭任の申出は世に有りふれたやうな感情上の行違とか、業務上の齟齬とかのやうな理由によるのではなく、實に日本基督教女子青年會は既に創業の時代を過ぎて基礎も据はり、方法も備はり秩序も立つて、今や誰の手に托するも不安のない時期に達して來た此の際に、深い決心をもつて自ら自己に取つては一層適當で且大切であると信ぜられる他の一事業の創設に着手したいとの希望に因ることであります。既に其の理由が此の點にあるとすれば徒らに其の辭意を否む理由がないばかりでなく、これを容るゝと同時に私共は大に奮發して既往に於けるミス、マクドナルドの負はれた責任を各自に分擔

して、女子青年會の將來の發展を導くやうに努力するのが當然ではありますまいかと思ひます。殊に後任としては永年ミス、マクドナルドと共に女子青年會の双輪の如く相協力して居られた、ミス、マシウが就任せられることであれば、今後の女子青年會の爲には適材を適所に配する次第で、更に秩序ある發展を遂げて、ミス、マクドナルドに依て据えられたものを大成する事が出來やうと信じて疑ひません。私共は一層勇氣を皷して事に當らねばならぬ事と存じます。

終に臨みて私はミス、マクドナルドが今日迄の多大なる御骨折を感謝すると共に、たとひ表面の關係はなくなるとしても、どうか變りなき情誼を繼續して常に我が女子青年會と若き日本婦人のために援助を吝まれないやうに祈つて止まないのであります。

基督教女子青年會の活動と其機關

今回當本部に於て女子青年會各支部の働きの上に幾分の參考ともならん事を期して本誌上に「基督教女子青年會の活動と其機關」と題し本號には左記役員に關する提議を掲載いたしました。之れを手始めとして、漸次順を逐ふて青年會各部の働きに關する提議を掲載しやうとして居ります。

而して皆掲載し終りました後は、これ等を各支部のため小冊子に印刷せんとする計畫であります。依て右小冊子の內容を一層充實せしめんため各支部其他に於て氣附かれし點は事の大小に拘らず奮つて御申越あらん事を願ひます。又本誌上に所載の提議につきて御質問のある場合には是亦御遠慮なく御尋ね下さるやうに願ひます。

●●

次回は宗教部に就いてゞあります。各支部會員は

勿論其他の方々でも宗教部に關する注意、又よき集會を有つ方法、其他參考となるべき事柄につき御考のある所をどし／＼御送りあらん事を希望致します。

役員並に事務整理の事

(一)役員又は事務委員

女子青年會の事業は其女子青年會を代表せる役員又は事務委員之を司どる。又右役員又は事務委員は青年會の全責任を負ふべきものとす。

役員又は事務委員は會長、副會長、書記、會計及各種の委員長以下委員にして、其の委員の種類は概略左の如し。

會員誘導委員。聖書研究部委員。社交部委員。財政部委員。社會事業部委員。(慈善部、矯風部、傳道部、其他を含む) 集會部委員。仕事及販賣部委員等なり。

尚此他青年會が有し得る種類の委員は其必要に應じて隨意に設くる事を得べし。

役員又は事務員たるものは、すべて正會員にして選擧權を有するものゝみ、投票によりて選擧せらるゝ事を得るなり。

(二)精神的團體としての女子青年會の役員又は事務委員

役員又は事務委員は會則に從ひ女子青年會の目的即ち會員相互の間に基督教的性格を涵養し智識社交體育の發達を圖り、一般青年女子の間に基督教を普及し、且彼等を導き耶蘇基督を救主として信ぜしむるにある事を會員間に實現せしむべき任務を帶ぶ。依つて一度役員又は事務委員にして、其任務を完し得ず失敗するが如きことあらば全青年會の主要なる目的が失敗に終るなり。從て役員又は事務委員たるものは、最も有力なる篤信堅固の人格者たるべきは言を俟たず。故に

役員又は事務委員としての資格は

(イ)篤實眞面目なる基督教信者なるべし。

(ロ)成績優良にして聰明なるもの、且自己一人の

事のみならず、全校生徒及學校生活に深き興味を有する者たるべし。

(ハ)身體强健にして、體育に興味を有し自分のみならず、他人の健康にも心を用ふる者たるべし

此の役員又は事務委員は例へば學校等に於ける他の團體たる或は校友會或は文學會等の事務執行委員とは自ら其種を異にするものにして、其第一責任は單に青年會其のものゝ範圍のみに止らず、全校に於ける精神的指導者たるべきを知らざるべからず。

役員又は事務委員の位地に就く事は單に名譽なるのみならず、實に重ら責任の地位に上るなり。

『又我、彼等のために自己を潔む。』

『蓋人の子の來るは人を役ふためにあらず、反つて人に役はれん爲なり。』

との目的を成就せんがため、役員又は事務委員は屢々會合して祈禱をなし、聖書研究、社會事業、傳道或は其他時事の諸問題を研究し、又精神的生活を發達せしめ、或は學生をしてキリストに達せしむる方法等を考究するを必要とす。

(三)事務的團體としての女子青年會の役員又は事務委員。

(イ)役員又は事務委員は會の決議に反せざる範圍に於て必要なる總ての事務を決議し遂行す。

(ロ)役員又は事務委員は會の事業につき諸種の計畫をなす。

(ハ)會長は、各部委員會の委員長が、各々其の働きに興味を有し居る時には、決して己れ一人にて凡ての事務を處理するが如き事なかるべく。常に其の責任を分擔して全委員これに與かることは、青年會の活動を一層盛んにする所以にして、益々鞏固なるものとなるを得べし。力は一致協同にあり。

(ニ)全事務上の記錄は最も精密にこれを保存なし置くべし。然る時は、役員又は事務委員の交代する場合の如きは其記錄によりて新しき役員又は事務委員は舊役員又は舊事務委員によりて始ら

れし働きを繼續し、之を遂行し得るのみならず前役員又は事務委員のなせし同一の錯誤を繰り返す過失より救はることを得べし。

(ホ)學年の初頭において役員又は事務委員會は各部委員の働を計畫し、且事務打合會毎に諸部委員會の一つを定めて、これが働き其他を協議するは、役員會又は事務委員會の他の委員にとりても價値多し。

(ヘ)各部委員の働の計畫を立つる際、委員は單に幾何の金高を募集し得、又幾何の仕事を完成し得んと云ふに止らず、會員各自を發達向上せしむるにある青年會の目的を記憶すべし。

依つて會長、委員長、或は其他責任を負へる者はたとひ完全に且敏速になし得る事ありと雖も、自らこれをなさず、却て遲慢なる者を選びて之に任ぜしめ、彼をして敏速に完成せしむるやう教へ助くるやう努むべし。(されば遲慢なる者も一つの仕事を爲し遂ぐるやう、學び得るにより、青年會及其目的に興味を覺ゆるに至るべし。)

(ト)大模規の計畫をなす場合には顧問又は教師に相談し、其の助言を仰ぐべし、然らざれば往々知らずして過失に陷る事あり。又折々役員會又は事務委員會に顧問又は教師を招待するは最も良し。

(チ)役員會又は事務委員會は、規則正しくこれを開會すべし。或る支部は毎月一回該會を開くべし。然し役員又は事務員にして眞に學校の精神的生活を導きて之を深からしめんと欲せば、少なくとも數回は役員又は事務委員の祈禱會のみにても開くを要す。又或る支部においては一週一度の會合も決して多きに過ぎざるを經驗せり或る一定の期日及時間を定めて半時間たりとも祈禱及聖書研究のため集會を開くは良し。役員又は事務委員がこゝに略說せる働きを眞實に實行せんと試みる時は自ら一週一度會合の必要なるを認むるに至るべし。

(リ)役員會又は事務委員會は大要左の三部に大別すべし。

(1)議事。

(2)豫め定め置きたる一委員會に就きての協議。

(3)祈禱、(或は聖書、宗教書研究)

此聖書研究につきては、會長は毎會一委員を指名して次回のため、豫め一定の場所を研究し來らしむるをよしとす。祈禱は一人のみ祈禱するにあらず、小祈禱會の心持を以て委員一同祈禱するやう努むべし

此祈禱の時を會の最終に置きしは、委員一同凡ての計畫及協議せし事を其中心に明確に記憶なし居るを以て、一層熱心にこれ等の事につき神に祈る事を得るによる。議事の部分は祈禱の時間不充分とならぬやう速かに運ぶことに心掛くべし。

(ヌ)各部委員長は、其報告を必ず一月一回書記に渡すべし、而して書記はこれを各種の集會記錄と共に、大切に保存し置くべし。

(ル)新に役員又は事務委員の選擧されたる時は、新舊委員合併して委員會を開き、過ぎし働きの一般の計畫、及將來において計畫を實施すべき最良法等につき協議すべし。

以上は單に各支部の役員又は事務委員をして、學校生活における最有力にして且最有功なるものとならしむる上に於て參考となるべきものを擧げたるなり。役員又は事務委員の任にあるものの地位は單に名譽あるもののみならざる事を呉々も記憶せらるべし。

託されし金を二倍にせし僕に對し、主人はこれに休息を與ふるにあらず、却て尙ほ大なる仕事をなすべき機會を與へて報酬となせり。

研究すべき參考書及問題

エスの人格、エリザベスフライ傳、新島襄傳(デビス著)。ポーロ傳(ストッカー著)

傳道事業。日曜學校が小兒を通して其近隣に及ぼす感化。肺結核及其豫防法。基督敎的主義の下にある病院。孤兒院。救世軍。矯風會。幼兒委託所。盲啞院。癩病病院。等に關する問題。

基督に由る神の愛

植村正久

患難にも欣喜をなせり蓋患難は忍耐を生じ忍耐は練達を生じ練達は希望を生じ希望は羞を來らせざるを知る是我儕に賜ふ所の聖靈に由て神の愛われらの心に灌漑ばなり、我儕なほ弱かりし時キリスト定りたる日に及びて罪人のために死たまへり。それ義人の爲に死るもの殆ど少なり仁者の爲には死ることを厭ざる者もや有ん。然どキリストは我儕のなほ罪人たる時われらの爲に死たまへり神は之によりて其愛を彰し給ふ。

（ローマ書五章三節―八節）

私は今この句の意味を委しく說明するのではなく、唯この要點のみをつまんでお話しをするのである。神がわれ等の罪のために苦痛を感じて居らつしやる、神はわれ〳〵の罪のために限りなき苦惱をもつて居らるゝ、これによりわれ〳〵は神の愛を知るのである。つゞまる處基督敎は神の聖靈によりて、其愛が神が如何に吾々を愛し給ふかと云ふ事をわれ〳〵の心に明白に了解せしめ、神の愛を認め得て、其の尊い事を考へる所から、この魂を浮き上るばかりにならしむるのはどうしてゞあるか、則ち主耶蘇基督がわれ〳〵のために死なれたからである。若し耶蘇が唯神の御使で、恰度兵士が主君に命ぜられて遠方へ戰に行くやうな、それと同じやうな意味のものならば、假令、その兵士が討死しても、それは主君の討死ではない、其の者の討死、其の者の愛國心、其の者の忠君の精神の發露である。耶蘇がこの世に出て吾々のために十字架の苦しみを受けた、これは兵士の討死の如きものか、又は君主自ら戰陣に

立ちて血を流した方か、何れであるかポーロはこれをかう解釋して居る、「即ちキリストは我儕のなほ罪人たる時われらの爲に死たまへり」といつて居る、又「神は之によりて其愛を顯し給ふ」と、續けて云つて居る。耶蘇がわれ〳〵のために死なれたのは、神がわれ〳〵のために死なれたのと同じで、耶蘇が人のためにこれを救はんとしてなされし事は、神自らが人を救はんためになし給ふたのと同一である。この驚くべき事實を信ずる事によりて、神の愛が溉がれ、われ〳〵の靈魂が浮き上るばかりになるのである。昔のユダヤ人は神を信じて、神は偉い御方、必ず間違ひなく公平無私に事を行ふ方である。近くは自分の身の上、周圍の事情等に照らし、或は世界の有樣を考へ、それでも明白にわからなければ歴史に照らし、先祖はこれ〳〵しか〳〵、どこの戰に、又明かなる場合に神の審判がどうあらはれて居つたかなどと云ふ事實を擧げて、この通りであるから慥かに天に在ます神は正しき方で善きものを愛し、惡しきものを憎くみ厭はれる、實に恐るべく又賴母敷き方だと信じ、又詩にも詠たつて居た。これはわれ〳〵詩篇を讀めば明らかに見る事が出來る處の事である。自分の國のためばかりでなく、他國の興亡を見ても甚だ公平で又恐るべきものであるが、われ〳〵がこれに信賴するならば、決して不安心な所はない、これが眞に平和の道であると信じ、又主張して居た。所が後になつてさう云ふ事ばかり云つて居られぬやうになつて來た。國と國との關係でも主張通りにならなくなつた。そこで信仰を廢めやうか、いやこの信仰はやめられない、これが生命である、この道は暫時たりとも離れる事は出來ない、恰かも神が人間の善も惡もこれに頓着せず、平氣である樣に思はれ、人間の艱難辛苦、或は喜び、或は悲しみに對して、正しき考を持て居られるか否か疑はしい樣に思はれる。孝ならんと欲すれば忠ならずと云つた風で當方に出來なくなる。そこでユダヤ人の間には、神が後に世を審判し給ふ、今にメシヤ即ち正き

を世に行ふ公平な、英明な、尊き大君主があらはれる。その時には、曲直明らかに別れて、神の正しき審判が判然と行はれるやうになるだらう、既にこの兆候がある、自國の歴史又周圍の國の有樣から照らして見ても其兆候は手にとる如く見える。夫を力に望みをしなぎ勇氣をさゝえて、正しい眞の神を信ずる心を失はない、何處までも其信仰の心を保たうと考へたのである。又ます／＼奥深く考へを進めて行けば、人間の社會は根底から腐敗して居る、この社會を救ひ、新らしく建て直す事は到底出來ない。それ故恰度今の無政府、又は虚無黨の如く、全然これを倒して、作り直してしまはねばならない。信仰に燃えて居る人々は、政治とか、社會の制度とか敎育等、皆古きを破つて、新規巻直し新らしい社會が出來る、こゝで始めて神の德があらはれてくる。今までは神が黒雲につゝまれて居つたが、其黒雲が晴れて、奇麗な月を見ると云つた風になると唱へたものがある、舊約のダニエルなどはこれである。この主張は覺束かないやうにも思はれるが、止むにやまれぬ靈魂の働き、今申すように種々苦心に苦心をかさねし、精神上の煩悶の結果、さう云ふ風にいろいろに成つて來たのである、先づ舊約ははじめからこれを主張して居る。良き事をすればそれ丈の幸があり、惡を行へば直ぐ刑罰にあふ、「正直の頭には神やどる」と云つたやうな事から煩悶をかさね、予言者の言葉となり未來となつたのである。神は我々が憂苦悲哀に沈んで居る時、又正しき事をなす時、神は眞に正しき考を有して居られるであらうか公平な審判を行はるゝであらうか、神は人間の精神狀態に無頓着ではないか、一體この萬物の成り行き、落ちつく處はどこにあるか、如何に成り行くか、これらは實に大問題である。舊約はこれに解決を與えんとしたものである。しかしわれ／＼は新約に於て其中心、根本、其眞髓なるキリストと其十字架を見るに至つて、はじめて事明瞭、確實、眞に神の聖旨が解せられて來たのである。無論これにつきては複雜な問題

種々難かしい事がからまつてをるのであるから、いち／＼辯明をしたり說明をする事は出來ない相談である。然し其中にわれ／＼の心に愉快實に感謝して悅び勇み、靈魂が浮き上るばかりに感ずる事がある是は神が人間の腦み苦しみに無限の同情を有し、これをあはれみたまふた其明白な事實である。耶蘇が敎へられた樣にもし神が私共の天の父、ルカ傳十五章に記してあるやうならば、今日の人の有樣を天から見て居られて、その胸が破裂けるばかりに惱みを感じ給ふは當然の事である。親がその子の淺ましい狀態を見て、苦しみ惱むならば、神は今日人が迷ひに迷ひ居る此の狀態を見て非常に憂ひ給ふに相違ない。即ち耶蘇と其十字架を見る時に、これを明瞭に認めるのである。若し耶蘇基督が眞に神が人としてあらはれた方でなければいざ知らず、耶蘇は神であつて其耶蘇の苦痛は神の苦痛であるならば一言して耶蘇を見て神を見、耶蘇に接觸して神に接觸する。耶蘇の生涯を見て、神の御生涯を見ると云ふのが基督敎の信仰である。この信仰を有してをるならば、人間が罪惡に陷つて苦しんでをる時、神が苦痛に思ひ、其心をいためて居らるゝか、其苦心を認める事が出來る。人間が神に背き、神を忘れる時如何に腦み苦しみを感じたもふか、而かも無限の苦痛を感じて居らるゝ、且又、唯苦痛を感じ給ふのみでない、即ち其人間を愛を持つて救ひ給ふ。自ら人間の爲に苦痛を嘗め、其重荷を背負つてこれを救ひ給ふ、神の愛は現に吾々の心の中に活動してをる。實に不思議な力を有してをる、愛の全能力。決して惡を踏みつぶすのではない、或は因果は覿面、恐るべきものなりと感じて、其全能を認め、神の前におびえて、平伏し、恐懼身を置く處をしらない、或はさう言つた風の方が、一番いゝと思ふかも知れない。然し十字架をもつて、人を悔ひ改めに導く、其冷酷な心に神を信ずる溫かさを生ぜしむる、驚くべき愛の力、偉大なる力、さう云ふ方法をもつてわれ／＼を救ひ給ふのである。一體、天の父は人の成り行きに對し無

頓着ではないか、天道是か非か、舊約では種々說明を試みた。又今日ある人は學問上から理屈によつて神をみとめ、神を敬し是をおそるゝ道を學ぶ、其人の道念の働きで出來ると云ふものがあるが、間違ひである。御覽なさい、舊約で手をかへ、品をかへて魂の生命をつなぎとめんと試みたが無益であつた。今日の人が精神上の事を安請合ひするかも知れない。しかし、神の愛がこれに注ぎ、心が浮き上る許りになる其力をうける、これ決して容易の業でない、今日諸姉妹が哲學の歴史をしらべても、宗教哲學を讀んでも、又物知りが書いた書物を讀んでも、容易の事ではない。無神論、有神論など種々議論はあるが、然し耶蘇は如何なる方、我々に何をせられしか、其の十字架は吾々に何を表はすか、神は人の成り行きに付いていかに思召して居らるゝかなど問題は種々ある。種々ごぢりまわして此處が解らない彼處がわからないと云つてつめて行けば、際限がない、この問題ばかりでなく、世の中の事、凡て然りである。然し神がわれ〳〵の罪をあはれみ、これより救ひ出しこの惡惠を征伐して居り給ふ。其征伐も愛の方法、犧牲の方法によつてである。この事實を認むるならば、神をうたがひあやぶむ餘地はない筈である。殊に聖い熱心な、父の子を愛するよりもなほ切なる愛を有したまふ事を考ふれば考ふる程、不思議に、凡ての問題は解決し去らるゝのである。依つてこの事實を認める事が目下の急務である、他の事は後でも好い。神の品性、神の愛、神の救、罪惡の成行きにつきて、これは疑ひなき明白なる事實である事を認めた時には、即ちこゝにある『患難は忍耐を生じ、忍耐は練達を生じ、練達は希望を生じ、希望は羞を來らさゞるを知る、こは我儕に賜ふ處の靈聖に由つて神の愛われらの心に灌漑ばなり。』と云ふ事になる。これがキリスト敎である。若し現在神の聖旨がこれをそのまゝ吾々の靈魂に深く經驗し得るやうにあらはれて、居らないか、或は耶蘇と其十字架を傍におし除けて置くならば世の中は暗黑とな

り、多くの世間的學者と黨して世の本體は何かなどと云ふ無益な事を論じ終るのである、又宗敎心の篤き人にして、舊約の說明位が關の山である。神は其一人子を與へたもふほどに世を愛し給ふ、これより他に道はない、天地萬有はこれにてはじめて說明し得らるゝのである。(文責在記者)

見・聞・想

「小公子」を見て

大山とめ子

私は前に譯本の「小公子」を讀みまして家庭的な敎訓的な小說の上乘なものとは信じて居りましたが、今度活動寫眞で見まして更らに其の感を深くいたしました。どの家庭でも同じでせうが、大きな隱れた親石がなければ家屋が建て居ないやうに、幸福な家庭には見えない大切な礎が必要であります。それはエロル夫人のやうな心掛でありませうと存じます。一家の主婦たるものに斯る心掛がありますなら屹度家內に風波などの起る筈はありません。耐忍深い萬事控目で濃情なエロル夫人は私共婦人の模範であります。殊に我國のやうな家庭の組織が複雜になつて居る場合には尙更ら深い暗示をエロル夫人に於て見出す事が出來ると思ひます。

日本基督敎女子青年會本部の移轉

日本基督敎女子青年會本部は是迄東京市牛込區田町に設置してありましたが今回都合に依つて

東京市神田區北神保町十四番地
(東京基督敎女子青年會新會館內)

に移轉いたしました。何卒今後の用向はすべて其方へ御申越を願ひます

大正五年一月

日本基督敎女子青年會本部
電話本局五九八
振替口座東京貳參八貳參

神の臨在

山室軍平

神様は天地の間に到る處に充滿て居られる。信仰の眼の開けぬ人は神の在し給ふのに心附かぬのであつて、罪を犯した人間には神が無い譯ではないが、靈の眼を閉ぢて御顏を見る事を避けるのである。それと反對に神の旨を行ふ者は神と共に居り共に働く事を喜びます。モーセがイスラエルの人民をエシプトから導き出す時には、『エホバ言ひ給ひけるは我自ら爾曹と共に行くべし。』との御言葉をきいて喜んだのであります。實に神の前に一擧一動をなすクリスチアンの生活は神を伴ふて出て、自己の務をなすので、ニコラス、ヘルマン、即ちブラザー、ローレンスの名をとつた所の人の如き、彼は佛人ですが、十八歳の時に神の惠を受けまして、教育も無い人で、職工、馬丁、兵士等を致しましたが、遂に修道院の奉公人となり、斯くて神と共に働き汚を避け總て神の前で生活し三四年苦心の後に神の臨在を實驗しました。

如何に心掛けたなら日毎の生活が神と伴ふ事が出來ませうか、第一は神の前に省みて疚ましい事を悉く捨てなければなりません。『我潔ければ爾曹も潔くすべし。』靈の上に清き衣を纏ふ即ち正しき心を以て自分の心の上を裝ふて居らなければなりません。イザヤが幻の内に『聖なるかな』の歌を聞き、聖なる神を見上ると罪に汚れし事を心づき己が唇の汚を告げましたので、天の使は彼の唇を火を以て清めました、斯くて憚りなく神の前に出る事が出來たと申し

ます。

次に神に見え心を養ひ献身の人となる事であります。基督教は事業に身を委ねる事ではなく、一向神の御旨に適ひし働をする事であります。キリストは十字架にかゝられる前に我心のまゝをなさんとに非ず、聖旨をなさせ給へといはれました。クリスチアンは神の命じ給ふまゝをなす故に神の僕であります。慈善事業をしますから、聖書を讀みますから、あらゆる罪惡と離れて身も靈も神に捧げたといふのではない、神の臨在を樂んで神に總てを委せて善きになし給ふを信ずるのがクリスチアンの生活であります。最初は意味が分らないでも終には最上の方法と分る様になる。故に何事も信じて委せる事が必要であります。

次は神と共に歩む事即ち服從の生活であります。人は總て神に依つて教へられる故に其導に從はねばなりません。又神の御心は愛を以て世界を支配されるのであるが、神の世の中で自分勝手を行ふ者がある故に駄目になるのであります。神と共に歩む生活は神と同じ目的を有する愛の生活でなくてはなりませぬ。

次は人に善をなす生活で、人の靈を愛するならば他人に救の道を告げる事の出來ぬ理由はありません。神と心を一にして其聖旨を助け奉らねばなりません。ムーディが靴屋の番頭をやめて宗教家になつた事も最初の動機は或熱心なるクリスチアンの日曜學校の教師が肺結核でシカゴの町に退いて歸郷する事になり非常に悲しみました。ムーデーはそれを聞き、其不信仰を訝り總て神に委せる筈ではないかと言ひました。所が其教師は若き娘等を托され聖書を教へしも未だ一人の悔改するもの無く何の爲に教へしか神に對し申譯なし、そが心に懸り此地を去るに忍びずと談しました。そこでムーディは大いに感じさらば娘等を訪問して其由を告げてはとて、二人にて一人々々を訪問することにして、遠き處は汽車に乘つて訪ねた處、皆大いに感じ從來の不熱心を詫び

即座に救に入り一週間にて十七人を訪ね盡く救に入らしめました。教師は疲れも忘れて大いに喜び娘等は相談して此日曜學校の先生の爲に送別會を開き、詫びながら談を述べました。愈々出立の時となり汽車が將に出やうとする時、先生は手を擧げ死にて天國にて再び逢はんといつて別れました。ムーディは此時靈を導く程尊い仕事があらうかと感じて宗教家となつたのであります。人は十字架を負うてなす時に適はないものはありません。神や人の爲に苦勞をしなければ駄目です。譽めらるゝ半面には『あれまでにしなくとも』と云はれたいものであります。昔より多くの人が苦しみましたがキリストは十字架にかゝり手本を示し給ふた。私共は何處までもイエスに從ふ筈であります。或一人の聖者があつて、教壇に立つと話さざるに既に靈の力が人々の心に浮ぶのでした久しき間其原因がわかりませんでした。ところがそれは地下室に十字架を備へ集會に出席の前には必ず其室に入り弟子に己が身を十字架に括りつけさせ鞭にて打たせて主が自分を救ふ爲に苦を受け給ひし事を思ひ廻らし、そのキリストを偲びつゝ壇に上るので、何時も人の心を靈を以て充す事が出來たといひます。

皆さん、どうぞ日常の生活を神の前にするか否かを考へなほしていたゞきたい。神の臨在、神は何時も在し給ふて各々を祝福し給ふのであります。

新年河　まつ子

定めなき淵瀬やさはぐ大河も
新年ぶりに流れぬるかな

門松雪　同

門松の枝にかゝれるしら雪も
年の飾となりにけるかな

春待心　同

新玉のとしはたてども花鳥の
春待とほく思ほゆるかな

若水や千代萬代の五十鈴川　玉木

年禮やきのふの主今日客　同

最初のクリスマスの木

ヘンリー、バンダイク
河口正子譯

ファゼルの修道院に於けるかのクリスマスの夜より早や二年は過ぎた、二十人にも足らぬと思はるゝ巡禮者の一行が中央ドイツの山々に廣がつて居る茫漠たる森林を横ぎり、北の方へと靜かに歩を運んで居た。其一行の先頭にはウインフレッドが進んで居る。其服裝はと見るに、毛皮の外套に身を包み、自分の歩行をさまたげないやうに其長い墨染の法衣を腰のあたりまで卷き上げて居る。其獵人の靴は全く雪に覆はれ、彼の脛を卷いて居る革紐から滴つて居る氷の滴は寶石の如く輝いて居た。彼れの胸に懸つて居る監督の十字架と頸の周りに其外套を留めて居る銀の釦金を除いては他に何の裝飾もない。そして手には其上に十字架の形を現して居る頑丈な長い杖をついて居るのであつた。

彼れの側近く、最も親しい仲間の如く歩調を保つて居るのは青年グレーゴー親王である。荒野つゞきの長途の徒歩旅行は彼れの足を伸し、其肩を廣くし、彼れをして其精神と同じく體格をも一人前の男子とした。彼れの短上衣と帽子は狼の皮でつくられ、其肩には刀身の廣い氷の如き鋭い斧を擔いで居る、今彼れは強い巧者な樵夫であつて、巨大な松の木などを伐り倒す時の其の腕前は黒人の樵夫さへ三舍を避けなければならなかつた。

此二人の指揮者の後には、野宿の道具や食糧を積み二匹の豚と、尨毛の馬に牽かせた粗橇を馭して居る二人の聯畜馭者が從つて居る。其馬は殆ど凍つて居る鼻孔から雲の如く呼氣を吐き、少さい氷柱は其口毛から垂れて居る、脇腹からは湯氣が立ち、其足は柔らかい雪を踏む毎に脛の上まで深くかくれて居た。最後には弓と投槍をもつて武裝した殿軍がついて居る。かくしてヨーロッパ大陸を徒歩で横斷する

と云ふ事は其當時決して容易の業ではなかつた。
　晝尙暗く、渺茫として然かも寂寥人をして棘然たらしむる森林は一面に小丘溪谷を覆ひ、此處には渺々たる高原、彼處には峨々たる山峯雲表に聳えて居ると云ふ有樣で、其内に散在する沼地には恰も惡鬼にでも追ひ詰められたかの如く一群になつた狼が住んで居た。又纏結あつた深い叢林には山猫や野猪が巢を作つて居た。猛惡な熊は屢々岩だらけの險路に潛み、未だ人間の顏をおそれず、森林中の陰欝な凹地は猛獸よりも尙恐るべき住民に其隱所を與へて居る、此住民と云ふのは或者は兇惡な惡徒であり、或る者は强情不屈の盜賊であり、或者は狐憑、又或者は徘徊せる奪掠者の一團であつた。
　タイバー河の河口から、ライン川に來る巡禮者は全く神に其身を委せ、其矢は箙より取り出して、絕へず用意周到にして置かねばならない。彼の旅人達は蒼波浩渺として其盡くる處を知らない樹木の大海に圍まれて居た。そして恰かも四圍より彼れ等を壓服せずんば止まずと押寄せて居るやうに思はれた。猛り狂ふて居るやうな節だらけの大樫は其くねり曲つた大枝、小枝を狂瀾怒濤の如く林の上に突き出して居る。圓い灰色の滑かな掬の林は、大暴浪の中に丘と云はず、阪と云はず凡てのものをはき込んで居る。然し最も著しく目に立つのは幾萬本とも數知れぬ松樅の森である。單調にして何の風致もない無數の松樅、其幹は眞直に且强硬に成長し、其枝は欝蒼として一見連綿たる綠の昇潮のやうにからみ合つて居るのが、恰かも泡沫をとばして岩に碎くる白波の如くに、或は谷を越え、或は山を攀ぢて叢生して居る。此蔭の海の中に輝いた白い一筋の狹い線が通つて居るのが見える、これぞ雪に覆はれた昔のローマ街道である。これは恰もいにしへ、或る大きな船が綠の海を駛走して、その後に泡沫の厚い滑かな痕を殘したやうに見えて居る。此開いた路に沿ふて旅へは進んで行つた、然し深く吹雪の爲に道はなかなか捗取らず、且嚴冬に堪へかねて沼地から出て來る

狼群のため用心に用心をせねばならなかつた。
巡禮者一行の足音は殆ど聞きとれぬほどであつた。然し橇の乾いた雪の上を軋る音と馬の喘ぎとは沈靜な空中に響いた。道の西側には薄青い影が長くさして居る。太陽は既に傾いて木々の後に沈んだそれに續いて黄昏の幕は恰も猛禽が餌物を見がけて飛び下らんとして、その相圖を待つてゞも居るかのやうに、瞬く間に下された。
「聖父様！」とグレーゴーは、指導者に言葉をかけた。
「もう今日一日の進行は終りました、それに今は最早や休息し食事をして眠りにつくべき時です、若しこれ以上に我々が強いて進んで行つた處で、私共の足元は見えません、それに人間の足にたよる勿れと我々に云つて居る詩篇の作者ダビデの言葉に背くものではないでせうか？」
「いや！　グレーゴー」とウインフレッドは笑ひ作ら云つた。
「貴殿は今でも未だ言葉の意味をとりちがへて居る。ダビテは唯われ人の足に樂しまずと云つて居るのみです。我々も今少し先に進み、今晩の仕事を終へて仕舞ふまでは貴殿の足も私の足も惜もうとは思はないから私も同感だ。貴殿の帶をお緊めなさいそしてこゝは我々の野宿の場所ではないから、あの道に横に倒れて居る木を切り去つて下さい。」
青年は其言葉に從つた、二人の樵夫は彼に手傳つた、やわらかい樅の木が力一杯打ち下された斧に切り倒され、其曲つて居る枝の雪が飛び散つて居る間ウインフレッドは酒のやうに人を興奮せしめ元氣を回復させる愉快な聲で其一行の者に云つた。
「兄弟達よ！　しつかりなさい。もう少しだ、直ぐに月は吾々の道を照して呉れるだらう、それに道はもう平坦だ、これは實に疲れる旅行である事は私もよく知つて居る、そして私の心も、私の愛する家庭や朋友が此のクリスマスの夜をお祝ひして居るあの英國にある自分の家庭を戀しく思つて居る。然し吾

々は今晩お祝ひする前になすべき仕事を持つて居る今はエス降誕祭の季節で、森の異教徒等は彼等の神々を禮拜するために、ギスマーの雷神の樫の木の周圍に集まつて居る。奇妙な事や、吾々の心を暗かしむるやうな殘忍な行が見らるゝであらう。然し吾々は其彼等の暗黒を照さんために送られたのである、而して、これから吾々と同じ人類に嘗てこの森林地にしられた事のないクリスマスを吾々と共に守るやうに教えやうぢやないか？　さあ！　進みなさい、持つて居る足をしつかりして、もう僅かだ――

同意の囁きは人々の口から發した、馬でさへ新鮮な心を持ち得たやうに見へた、彼れ等は重い荷物を引くために其背を平たくし、其鼻から霜をふいて前に進み出した。夜の暗はだん／＼擴がり犇々と迫つて來た。然し光明の門は僅かに空の何處かに開かれた、高く／＼皎々たる月光の潮は滿ちて來た、そして其光は遂に東側の森を超えて流れ込み道路を隈なく照した。狼の群が遙か彼方にかすかに咆えて居るのがきこえる、然し彼れ等は退却して居た、そしてやがてその聲も消え、夜は元の靜寂にかへる。引緊つたやうな空に無數の星は欣然として輝きて居た、小さい眞圓い月は銀のやうに輝き、夢見て居るやうな靜かな風は、巡禮者たちが暗の迷園の内を、導線の光をたよりに勇敢に骨を折りて進んで行つた時、尖形をなした樅の木の頂上を靜にかすめ去つた。

暫しの後、道は少し廣くなつて來た、處々に赤楊で縁とつた牧場がある、その後には喧騷な小川が氷の槍に突き當つては流れて居る。削つたのみの丸太の粗末な小屋が明地の中に現はれた、そして一つ一つが雪の上に黒い影を投げて居る。やがて一行は靜寂無燈の人家が前より一層多く群がつて居る小さな村を過ぎて行つた、そしてその彼方に彼れ等は多くの離れ屋と圍まれた中庭のある大きな家を見た、その中から獵犬が猛烈に吠え、厩舍から足踏みをして居る馬の音が聞へて居た。然し其他には何の生きものゝ響もなく、野は隈なく月光に照されて居た。彼

れ等は牧場の彼方の端を界してをる小道の上を、大急ぎに走り過ぎた。三つの黒い影の外は人の子一人にも出逢はなかつた。それから道は再び深い森の中に入り、其森を横り、左に勾配を上つて不意に北側の一方を除いて他は圓い平坦な林中の空地に出て居る。其處にある小丘は一本の大きな樫木で覆はれて居た、其木はヒースの上に塔のやうに聳え、又捻れた腕をさし伸べてゐる巨人の如くにも見えた。

「此處だ！」ウインフレッドは叫んだ、其目は輝き其手は重い杖をさし上げて居た。

「雷神の樫木のあるのは此處だ。そして此處で此キリストの十字架が僞の神ターの金鎚をこはして仕舞ふのだ」

　枯れ果た葉は尚其樫の木の枝に固着して居る。これは過ぎ去つた夏の破れて色褪せた旌旗であらう。秋の燦然たる深紅の色は嵐と寒さに晒されて、餘程前に消え失せた。然し此夜光輝の褴褸々々になつた殘物は再び紅に彩られ、紺碧の空に對して昔の古い血の汚點の様に見えた、則ち澤山の火が其の木の前に燃されて居た。眞紅の焔の舌、紅寶玉色の火花の噴水は擴がつて居る枝より上り、其上にも、周圍にも恐ろしいやうな光明を放つて居る。圍まれて居る森を隈なく照らして居る、蒼白な澄きつた月光は、こゝに汚蝕され、消されて居る、そして其一光りさへ樫の木の枝を涌る事は出來ない。其木は恰かも靜かな天上の光と、パチ／＼音をたてゝ勢よく燃えて居る地上の火との間に雲の柱のやうに立つて居た。

　然し火其物さへ、ウインフレッドと其一行には見えなかつた。群集は半圓形を描がいて其周圍に集り彼等の背を空地にむけ其顔を樫の木の方にむけて居た。眞紅に燃えて居る焔を背景にして、其群衆は唯呆然した、黒い形のない奇妙な半面黒像の集りのやうに見えた。旅人は暫し森の片端に止まつて相談を初めた。

『あれつ蠻族の群集です』と樵夫の一人は口を切つた。

『あれは大評議會の夜です、私はこの事を三日前村を通つた時聞きました。古の神々によつて誓を立てたものは召集されたのです、かれらは戰の神に駿馬を犧牲として供へ、血をのみ、自分等を強くするために馬肉を食します、若し私共があれに近づいたらそれこそ命はありません。死を遁れ度いと思へば、少なくとも私共は十字架をかくさねばなりません。』

『私を十字架の上にお隱しなさい』。ウインフレッドは自分の杖を高く上げて叫んだ。

『私は是を見せ、あの盲目な人間等にこの十字架の力を見せんがために來たのであるから！　今夜此處では駿馬を殺すよりも尙以上の事が行はれ、偶像に供へた肉を食する恥かしい行より、なほ妨がねばならぬ大なる惡事が行はれるはずである。私は夢の中にこれを見た。こゝで十字架は立ちわれ〳〵の力とならねばならぬ。』

彼の命令に應じ、槐はこれが番をする二人の者と共に、森の端に殘された。他の者は明地を横切つて進んだ。群集は皆樫の木の根の火の方のみ熱心に凝視めて居たので、彼等は近よたが誰も氣附いたものはなかつた。

やがてウインフレッドの聲は轟き渡つた。

『やー諸君森の子供等よ、一面識もなき者乍ら、吾々もこの夜、諸君の火にあたらして戴き度い。』唯、一つの動力によれるかの如く迅く一齊に數千の視線は聲の主に向けられた。そして其半圓は沈默つて眞中から開き、ウインフレッドと其の一行が中に入つた後再び閉ぢた。（未完）

足のともしび

木岡莞爾

今より二十五六年前のことであるが、横濱山手二百十二番共立女子神學校の前身であつた。傳道學校に、十一人の姉妹等が心田の工人となるべく敏鎌を研きつゝあつた。

明治二十三年の五月三日京濱婦人會が校長ピヤソン姉の司會で開かれ、五月雨の中にいと濕やかな、しかも祈には力と熱のある會合であつた。其の夜は一同痛く疲れて寐入つたが、十一時頃とおぼしく二人の强盜が寄宿舍に忍び入つた。其うちの一人はバイブルハウス建築大工の弟子であつて、勝手知つたる彼は戸口の上の窓を破つて這入つたのである。初めには階下から一室毎に女生徒の金子を奪ひ衣類を漁り、やがて階上を襲ふて眠れる河野品子孃に出刄庖丁を突き付け『金はないか起な〳〵』と囁くのである。孃眼を開けば光れる刄物思はずも『まあー』と叫んだ。

『靜にせよ』と底力ある押し付けた彼の聲が一室の靜寂を破つた。此刹那胸中には神に祈らうか。隣の人を起さうかとの思ひが閃いたが、忽ち跪座して祈り初めた。其の生命がけの祈は刄物の前の信仰の宣戰であつた。折り〳〵其祈りを障げるものは『そんなに聲を出すと生命を取るぞ』『靜かに〳〵』など切れ〳〵に聞える聲である。しかし動すべからざるある力が、祈りと共に次第に加はつて心强くなつた。しかも自分を忘れて賊の爲に『兄弟を惠み給へ救ひ給へ』と力をこめて祈つた。餘り一生懸命であつたから、二三日は兩手が動かぬ位であつたさうである。祈り終れば氣も凛として彼等に向ひ『書生であるから持ち合せは餘り無い、自分の金が一圓ある、之を持て行きなさい、此外の金は敎師から預つた（聖書を購ふべく）のであるから差上げられぬ』とけなげにも言ひ放つたが、賊は『之もよこせ』と云つて奪つた。ふと振り返れば丈の高き一人の强盜は衣類を撰り出して居る、其の中に母が自分の畑の桑で飼つた蠶で初めて出來た糸から織り上げた、衣服が目に付いたから『其れは母が贈て來たのであるから取つたはいけません』と思はず叫んだ。賊は何と感じたるか、しほらしくも『遣れ〳〵』と云つて刀の先にかけて呉れた。（此刀後で聞けば木刀に銀紙を貼りたるものなりしと）賊の手にせる蠟燭の薄明りが、

棚の上にある聖書に光を送つた。孃の心には忽ち彼を導くべき足のともしび、路の光なり（詩篇一一九の一〇五）と氣が附き。彼等が隣室を荒して將に出で去らんとするとき、二人の賊を呼びとめ『鳥渡あげるものがあると云つて、其頃初めて製本の出來た新舊約の立派な聖書を手にし『之れを讀むことが出來ますか』と問ふた。賊は『讀めると答へたから與へんとしたが彼等も薄氣味惡く思ひけん、三足四足後すざりして『そんな嵩になるものはいらない』と云つて取らなかつた。賊は多くの贓品を大風呂敷に包み、極文句の捨臺詞を殘して立ち去つた。彼の黒い頭巾、刀、出刄庖丁など、女生徒の柔い心に、怖しい印象を刻み込んだのであつた。

　其翌日から祈禱會をするやら大騷ぎであつたが、不思議にも三日目に先づ孃の羽織が出て其後全部發見された。二人の强盜も遂に山手警察署の手で捕縛になつた。女生徒は何れも警察署へ呼出されたが、河野孃は賊の爲に祈り、衣服を取戻し、聖書を與へるなど、特に關係が深かつたから一番長く調べられた。孃は斯くも熱心であつたから、賊に對して更に同情加はり、署長に依賴して聖書を差入れることにした。其序に學校からも知事始め警部巡査探偵等九名に、同樣聖書を贈物にしたのである。老探偵は『年來探偵をして居るが、斯樣に早く全部の盜難品が揚つた事はない、全く耶蘇の御利益に違いない』と驚嘆して居たさうである。

　間もなく入獄中の賊から孃に宛てゝ手紙が屆いた其大要は『誠に貴孃の前と神樣とに濟まなかつた』と眞に悔悟し、涙で水莖を潤して認めた。赤心の吐露であつた。爾來數年杳として音沙汰がなかつたのである。

　河野品子孃は結婚して當時の新榮敎會牧師、今の日本基督敎會總務局の巡回敎師貴山幸次郎氏の夫人となつた。一日夫人の令弟河野政喜氏が、原胤昭氏から彼の心懸りであつた强盜が、全く善人になつた悔改談を聽かれて夫人に告げられた。其れは斯うい

ふ次第である。彼の賊は十年の重懲役に處せられ、北海道の集治監に送られた。當時の敎誨師は原氏であつたが、賊の行李の中に聖書があつたから聞糺せば、賊は『斯樣な譯で女學校の恩人に貰つた本である』と答へた。原敎誨師は『恩人に恩を返すには是非とも善人にならねばならぬ、其れには此本を讀むに勝ることはない』と諭された。賊は尙も言を續けていふに『耶蘇敎の人は强盜にも怖れぬ、又母の紀念の衣服を殘して呉れといふ孝心の深いのにも感じ、自分が寡婦育ちの氣儘者であつたことを痛く悔い、聖書を差入れて下さつた親切にも淚は咽んだのである』と述べた。噫此時神は『彼等に悔改むる心を賜ふて』（提摩太後二の二五）薊と荊棘の荒れ地から、生命の樹のある樂園に移され日々聖化しつゝあつた。彼は假名を學んで聖書を讀み、手習なども勵み、集りには必ず參加して信仰は次第に熟するに至つたのである。十年の刑期は　英照皇天后崩御の爲め、大赦の恩典に浴して七年で出獄することとなつた。其頃北海道を引揚げ神田に移つて居られた原氏に引取られて、神田教會で芽出度洗禮を受けたのである。

十三年ばかり前校長ピャソン姉葬儀の際、棺側に立つて原氏から紹介された一人の信徒があつたが、其れが獄中で悔改めた强盜の牧某である。葬式の説教に活きた話題となつて、逝ける恩師の榮の冠となつた牧某。今は某地で古本屋を開業し、世の紙魚の爲に匂ひ高き樟腦の一塊となつて居る。今一人の强盜小林某も正業に就て居たが、昨年聖き國に移されさうである。

見・聞・想

「小公子」を見て

戸田くに子

私は前年「クヮバチス」の活動寫眞を見た時に淸い〳〵處女の高潔なことゝ其の感化の大なることを感ぜずには居られませんでしたが、今度「小公子」の活動寫眞を見て高い〳〵母の精神と其の偉大なることを認めずには居られませんでした。私は無邪氣にして親切なるセドリックと共に其の母たる夫人の人格が偲ばれてたまりません。

白楊樹と楓

安中花子

○

或る夏の夜、森の木々は皆まどかな眠に就き、小川さへも歌を止めたかと思ふ程靜かな時、一人の老人が抜足差足で森の中に忍び込み、何やら丸い重さうなものを外套の下から出し、それを茂り合うた白楊樹の枝の間にかくして、又元の様に足音をぬすんで歸つて行きました。

「虹の下の黄金の壺を誰かにぬすまれた。ぬすまれた、ぬすまれた。誰か何處へ持つて行つたか知つてゐる人はないのですか。」

あでやかな虹の女神アイリスの氣たるしまい叫聲で見果てぬ曙の夢を木々は破られました。一齊に頭を打振るより外には何の答をも與へて呉れませんので、アイリスは泣く〱ジユピター神の許へと事の次第を告げに參りました。ジユピターの神は大層な立腹、「不屆至極の惡漢奴、いで目に物見せて呉れん」と早速に曲者捜索にと出で立ちました。

「黄金の壺をぬすんだは何者ぢや。誰か其の在所を心得ては居らぬか」と呼べど叫べど、唯木々は「一向に存じませぬ、存じませぬ」とより外に何の答も致しません。

「枝を擧げい。擧げて無罪の證據をせい。」焦立つて來た大神の聲は天地も裂けよとばかり、強う御座いました。

「ハッ」とばかりに木々は皆枝を擧げました處が、之はまた如何した事でせう、思ひも掛けぬ白楊樹の枝の間から黄金の壺はパタリと下に落ちました。嘲り笑ふ木々の間で白楊樹は暫しの間は唯ワナ〱とふるへて居りましたが稍あつて身を引きしめ、聲音凛々しく斯く申ました。

「たとへ如何なる事が有らうとも、二度と再び私の茂つたこの枝は人のぬすんだ寶物などをばかくしませぬ。

今日から後、何時の世までも、私の梢は、二心ない眞實を言ひ表すため、天にのみ向つて生ひ出でませう。」

之はずつと〳〵昔の事で御座いますが、白楊樹の枝は今でも、矢張り大空の方を向いて居ります。

○

夢の多い華かな若い胸に一度神の御囁を聽いてより「我が爲めの使命は彼處、東の國に。」と健氣にも母國を後にして、このやまとの地へと渡つて來られた一人の友は或る宵の徒然に、薄雪の富士を見上ぐる窓下で斯ういふ話を聞かせて與れました。

『昔の昔、大むかし、私の國に未だ顏の赤い土人も白い顏のヨーロッパ人も住んで居なかつた時分、『自然の女王』は侍女の『美』を御つかはしになつて其處に楓の木を植えさせなさいました。一もとの若木を土深く差し込み其上に手を置いて『美』は厳かに

『美しの若木よ、末長く榮え行け。太陽を仰ぎつゝ大空高くそびえよかし、眞夏の炎熱に打たれて勞れ果てたる人の子が其の下蔭に嬉しき休息を見出でむ爲め、右に左に、前に後に、汝の梢の茂れよかし。

黄金の色を太陽と競ひ、血潮にも類へつべき紅色に燃え出づ——是ぞ冬の凋落に先だつ汝の榮光たるべし。時劫の車のめぐりめぐりて、幾千年をも經なば必らずや新しき人の子の群の此の地に宿る事あらん。やがて其の日の至らん時、汝、楓こそは彼等新しき人々がなつかしむもの、愛づるもの——家と國との表象たるべし。』

と告げて、靜々と女王の許へと歸つて行きました。

此の昔語りは眞となりました。赤色人種、フランス人、イギリス人の爭はもはや消え去つた昔の夢で、加奈太の空高く『平和』は美しい翼を伸ばし。

『二つの種族の清き血汐を受けて新しき國民生れ出でぬ、なつかしの加奈太、我等が母國。我等は之をフランス人の百合の國とは呼ばじ、或はまたイギリス人がさうびの國とも稱へじ。

うるはしの『楓の國』然なり、義と情に燃ゆる『紅葉の國』とこそ賞へめ、『楓の國』これぞ我等がうまし母國にぞありける。』といふ神々しい聲は國中に鳴り響いて居ります。ランド、オフ、ダ、メープルス、それが私の國なのです。』

語り終へた友の眼には氣高い詩の光が輝きしほらしい露も宿つて居りました。

少年少女 聖フランシス

聖フランシスは、イタリーのアシシといふ邑のあるお金持の子息でございました。彼はお金のあるに任せ、世の中の勝手仕放題の出來る若者と同じ様に、贅澤な遊びに耽つたことも隨分ございました。けれど一度神様を信じてからと云ふもの、フランシスは生れ變つた人となり、身分も家も棄てゝ了ひまして一介の托鉢僧となり、キリスト様の聖跡をふみながら世を送るのが一生の願と、お祈りと、慈善と、神様の聖言を傳へるのに日も足らなく暮して居りました。

フランシスは、身を捧げてお事へ申し、お慕ひ申して居りましたキリスト様の御心を心としてゆくうちに、たゞ人に道をすゝめ、人を助けるばかりでなく彼の愛はだん〴〵に廣く大きくなりまして、慈雨一味、動物までもまるで兄弟かなどの様に可愛がる様になりました。

今でもイタリーに參りますと、聖フランシスが、雀にお説教を致しましたとき、雀達が聽きながら、とまつて居た樹と云ふのが、殘つて居るさうで御座います。聖フランシスが雀にしたお説教と云ふのはかうで御座います。

『姉妹の雀さん、あなた方を、造り主でいらつしやる神様はよく見ていらつしやいます。神様はあなた方に飛ぶ自由や、お重ねの着物を下さつたのですから、いつでも、何處に居ても、神様をお頌めなさい。その上、神様は方舟にあなた方の種を保存つて下さ

つて、食物を下さり、飲み水には河や泉を下さいました。

聖フランシスのお説教が濟みますと、雀達は嘴を開き、頸をさし伸べ、翼をひろげて、頭を地面につけて、恭々しくお辭儀をして、その身振りや、囀りで、天の聖父様は、自分達にほんとうに大したよろこびを下さいましたと云ふことをあらはす様に見えました。やがて聖フランシスは、雀達の上に十字をきりますと、雀達は妙じい歌を唱ひながら、飛んで去つたと云ふ事で御座います。

又或時、聖フランシスは狼にお説教を致しました子供諸君は、多分上野動物園でごらんになりましたらうが、あの眼のギョロッとした、口の耳まで裂けた狼。ところが聖フランシスのお説教を致しました狼と云ふのは、動物園に居るのよりもつと〳〵怖ろしいので、獸同士ばかりでなく、男でも女でも、見つけたら最後、研ぎすました鋸のやうな歯で、骨も餘さず食べて了ふのでした。それが怖さに、その村を通る人はなくなつて了つた程でした。

聖フランシスは、或日の事、狼の棲所まで參りました。よき餌物ござんなれと狼は口をぱつくりと開けながらやつて來ました。

「此處へ來れ、友なる狼よ、我は、キリストの聖名に於て、汝が我にもまた何れの人にも、害を加へざらんことを命ず」

と、聖フランシスか云ひも了らぬ前に、獰猛な狼はやつて來まして、聖人の足許にひれ伏したと申します。

そこで聖フランシスは、今は小羔の様におとなしくなつて居る狼をつれて歸り、市の人々に見せて、お話を致しました。其の後この狼は人に吼えもしなければ、嚙みつきもせず、その市で年をとつて死んだと申します。こゝに面白いお話は、何百年か經つてある邑の手入を致しました時に、昔のフランシスの狼の墓と云はれて居る場所から、狼の骸骨が出たさうで御座います。（ＭＭ）

以賽亞書

牧師　横田貞治

第四回以賽亞のメシヤ的預言

二章二—四　四章二—六
七章十—十七　九章一—七　十一章一—九

「されど聖裔殘りて此地の根となるべし」或はシャルヤシュブ、殘これる者歸らんとは、イザヤの大切なる思想の一つであると云ふ事は既に申述べた。之れ彼の以前の二人の預言者の思想を調和せしめたと云つて差支あるまい。アモスは北イスラエル全國民の滅亡である、其處に善惡の區別がない、個人は國家と運命を共にするのである。之れも九八—を見ると盡くは滅ぼさじと云ふ預言があれど其の所は種々なる理由によつてアモスのものにあらずとせらる。後世のものが其禍の烈しさに附加へたとすることが當を得て居る。罪の其國民は除外例なしに滅亡すると云ふ思想である。ホゼアに至るとイスラエルは懲治として刑罰を受くるか、つひには又皆歸りてエホバの恩惠を受くると主張して居る。イザヤに於ては、アモスの如く現在の國民に對して失望であつて到底滅亡の災禍を免ぬがれ難いと思つたが、又其中の善なる分子の在立を忘れなかつた。而して「殘れる者歸らん」と云ふ觀念を信ずるを得たのである、其處で彼には未來に對する大なる理想があつた之れをメシヤ的預言と云ふ。エルサルムの殿に神の衣裾の滿ちしを見たる。彼れはエルサレムに此のメシヤ王國建設せられ、メシヤ之を公平と正義とを以て治め給ふ事を信じたのである、此メシヤ的預言に對しては、果してイザヤのものか如何と言ふ兎角の議論もなきにあらねど、我等は先づ彼のものと見て差支なかるべし。兎に角イザヤ書を讀むに當つて其等の美しき思想を見免しにする事は出來ない。先づ二章二—五

と四章二――六を上げたい、二章二より四はミカ四一―四及同樣の文章がヨエル三―にもある、其處で議論がある誰れが先きに書いたのであらふか、ミカの方が後との關係が明かであるから、ミカの者であらうと云ふ處の學者もあるが又イザヤが後に自分の書いたのを此處に附加へたのであるなどと云ふ。或はミカもイザヤも共に古い詩人から取つたものであらうと云ふ。他のものはずつと後世の產物であると云ふ。兎に角其想の高さは八世紀のものとすれば如何にしてもイザヤの如き天才の筆にならねばならぬ。

(二)はエルサレムの山が凡ての山の上に立つ。之は形容的に云ひしなるべし。兎に角諸國民は之れを仰ぎ流れの低きにつくが如く慕ひ行かんの有樣を語る。

(三)彼等の慕ひ行くは富を得んためにあらず力を慕ふが故にあらず只エホバの言を得、其道を步まんにあるなり。

(四)……世界の平和を歌ひし美しき詩である。斯の如き古き時代、然かも未だイエスを知ざるの古き時代に於て、既に斯の如き高き思想のありしは實に驚くべき事なり。神によりて顯示されたる觀念にあらずして我等は到底其存在を疑はざるを得ず。此中に注意すべきは、(一)エホバが世界を統一するは、戰爭によるにあらずして實に其道德的、精神的感化によるなる事。(二)諸國民のシオンを慕ひ之に服するは、外部より壓制的に强ひたるにあらずして、エホバの敎に憧憬るゝ彼等の熱望乃ち自發の精神より出でたるものなる事なり。(三)其支配は政治的にあらず乃ち彼等萬國民は決してユダの國の下に支配さるゝのではない、彼等は各自獨得の國を有し政體を持す。イスラエルは彼等を治むるにあらず、エホバ彼等を治む。而かも劍にあらずして其の言、其道によりて治む。

如何に其思想の偉大にしてイエスの精神と相一致するか。只其異なるは此處にシオンにエホバの都の建てらるべきを主張した點ではあるが、今日の歐洲

の戰爭を見るにつけ、今日の基督教といへども、尙且つ此理想を實現するに遠きを思ふ、けれども此理想の來るを疑はない。

次に四二―六之はイザヤのものでないとする學者もあるが、然れども必ずしも、明かに斷言するを得ず。然かし之をイザヤのものとして其の何れの時代に屬すべきかを知るには困難なり。

(二)其日イスラエルの逃れたる者の爲めにエホバの生長物或は芽は美しくして榮へ、地の果はすぐれてうるはしくならん。(逃れたる者、エホバの刑罰を逃しゝもの殘れる者を云ふ。)エホバの生長物はエホバが生長せしむる物。〇此生長物と云ふ文字に議論あり。普通メシヤの事を云ひしなりと言傳へらる成程ザカリア三八六十二を見るに明かに此文字はメシアを意味せるなるも、其はエレミヤ二十三五三十三十五、のダビデの裔に義しき芽出づると云ふ句に範りしものなれば、果して其れを以てイザヤの此句を解釋すべきや疑問なり。殊に然らば其併行の句、地の果はエホバの生長物に對して何にを意味するや之もデリッツの如きはエホバの生長物も地の果も共にメシヤを意味せしにて前者はメシヤの神の子なるを語り後者はメシヤの人より生るゝことを示せしなりとするも、其は餘りに深く取り過ぎしやうに思はる。故に此處は文章のまゝに取りて、荒れたる土地も、エホバによりてよき生長物と立派なる果物を得るに至らん、と取るを穩當とす。土地豐饒にして、五穀實り、果物繁るはメシヤ的黃金時代の祝福なる事は屢々他の預言者に於ても見る所又イザヤ三十二十三にもあり。)

(三)エルサレムに存ふる者のなかに錄されたる、……乃ち生命の書に錄されたるもの、彼等は偶然禍をのがれたるにあらず、神によりて殘るべく定められたる者なるは明なり。〇罪の汚より離れ、又神に自らを聖別するものとなる。

(四)シオンに於ける惡を全滅す、エルサレムの血とは罪なきものゝ血を流せし事を云ひしなり。

(五)之は神がシオンを安全に守り給ふを云ひしものにて今は肉眼にても神の御守を見能ふ、尙ほ先祖等が曠野にてエホバの雲の柱、火の柱を見るが如きを云ふ。○あまねく榮の上に覆庇あるべし……は一寸分明せず、恐らく今の榮は凡てエホバによりて覆庇せられ、乃ち守られつゝあれば、前に彼等の樂しみつゝありし空虛なる榮の如きにあらざるを言ひしものか？

(六)此所にある晝と云ふ文字は前節のを間違へて入れしなるべし、此の意味は小さなる事にも彼等が滿足と安心を得るに至るを云ひしなり。かく此のメシヤ的詩は刑罰の後エルサレムに殘れる者にエホバの祝福あるを歌ひしものである。確かに殘れる者歸らんのイザヤの思想を言顯はして居る、之れも先きの二章二―四の詩と比較すると前者には刑罰等はない只理想的狀態に畫き出だしたのである。此處には刑罰を云ひ僅かに殘れる者のみエホバの榮をあふがんと言ふ決して兩者矛盾はない、二章―五章の預言集をなすに當つて、先づ將來の理想的光景を畫いて然かして後、徐々に目を現實のイスラエルにはなつた時に如何、其不義墮落、剛慢の有樣は如何にしても彼等の滅亡は預言せざるを得ない、然らば彼の初めに畫きし夢は僞りなりしか四二――六は其間の調和を得んが爲めに提出されたる詩である。兎角以上の詩に於ては、メシヤ的理想のメシヤは顯はれて居らない、エホバが其中心である先づメシヤの顯はれてる句として七章十四、―九章―七、十一―一―九等である。七章十四……」之は新約聖書にも引照されたる句にして果してイエス、クリストを預言せしものであらふか？ ○乙女とは結婚せぬ乙女と云ふ意にあらず、若き女、或は母たり得年頃の女と云ふ義なり。故に奇蹟的出產はイザヤの胸中にはなかつた、而して此乙女とイマヌエルは誰れであらふか？ 昔は之れをマリヤとイエスと取つて居つたのであるが、イザヤが其れ迄考を及ぼして居つたと思ふ必要はない、イザヤには寧ろ此事の近き將來にある事を信ぜ

しなり此乙女と云ふ字には冠詞あり定まりたる或る人である、其處で或は之を當時朝廷に於ける或　人又はヒゼキアの母であらふか？　或はダビデの家又はイスラエルの民を云ひしならん、イザヤの妻であらふか或は當時　如何なる女と云ふ風に取る。されどイマヌエルはメシヤを云ひしなるべし。乙女に冠詞あるは其母なるが故なり、而して其母とは必ずしも定まりたる婦人ではない。然かもイザヤは此母をダビデの家に求めずして、野に求めて居つたものであらふ。當時彼はアハズにあきたらずダビデの家に失望しつゝありし所、此處に理想的王の現出を思ふ又其の處たるなり。多分此處にはメシヤ的將來を預言したのではない、只善惡を知るの齡に達したる時に、地は僅かに乳酥と蜂蜜を出すに過ぎざる荒すたるべきを預言したのである。此インマヌエルの事は再び八章に出て其處には救主の顯はれん事を祈りし様にあり。八「ユダに流れいり溢れ手ひろがりて其頂まで及ばん（今一歩はユダの全滅に至らん）其のぶる翼はあまねく汝の地にみちわたらん、あゝイマヌエルよ。」此危急存亡の時に救者の出現を願ひしなり、されど此等は未だメシア的預言と云ふ事は出來ない。九章に至つてメシア的預言となりて顯はる。九、……「今共にうくれども……」二―三光明と喜とを歌ひ四、壓制者の滅亡五平和なるメシア的王國の建設六―七に亘りてメシアの誕生となる六「われら……殘れる者を云ふ」其如何にして生れ何處に生るゝかは云はず、イザヤは只其の驚くべき姓格を稱讃して、他を顧みるの遑なきなり、政事、全世界の政治なり、「奇妙なる議士、大能の神、とこしへのちゝ、平和の君」と云ふのがメシアの性格を顯はせし名である。○奇妙なる議士とは驚くべき議士殊に政治上の才能に卓越したる者、第二は力第三第四は其道德的性格、愛と平和而して其の治むるや壓制武力によるにあらずして、「公平と正義とを以て之を立て之を保ちたまはん。」以上の性格によれば、エホバとメシアと同じ様である、殊に十章二十一にはエホバの事を

やはり大能の神と云ふ、されど決して同一のものにあらず、メシアは此世に於けるエホバの代表者なり更に之を十一章一を見れば明かにせらる。

（一）エッサイの株…ダビデの父はエッサイである、サムエル前十七十二アッスリヤの大木は倒れてまた起らず、されどユダは倒れて只殘るものは木株のみにして悉く亡びしが如しといへど其處より一つの芽出でん第二のダビデ即ちメシヤ生れん。殊にエッサイの株と云ひてダビデの株と云はざりしはメシアの誕生の誰れによつてなさるゝか、明かならず、恰かもダビデが無名の人エッサイによつて生れしが如く、メシアも無名のものより生る事を暗示せるにはあらざるか？　二節にメシアの性格を語る九章に見る奇妙なる議士、大能の神に適應す、只此處にはエホバの靈其上にとゞまるによりて此等の性格を有すとなす、三五はメシアの世を治むる有樣九七にある公平と正義とをもて其國を立て又之を保ち給ふ有樣と同じ。（四節の其口の杖を以て壓するものを打ちおとすべし）メシアの裁決の言、六―九はメシア國の平和なる狀態を書きまことに美しい。

かく將來の理想に對してメシア王を理想して居る此等の預言はいつ頃であらふか？　元より之れイザヤのものと爲さぬものもあるが、我等は之を取らず先づ前者アハズ王に失望せし時代乃七百三十五―三十四年頃に屬すべきものとすべきとし、後者をイザヤ次より第四期に屬するとなすか？　然らば先きのメシア王なきメシア的は其以前か其以後か？　乃ち二二―四四二―六を九章及十一章のメシア預言より、後とすれば、彼はメシア王の出現と云ふ事に重きを置かざりしか？　或はイマヌエルの出現を嬰兒生れたり、（過去必ず過去にあらざるも、極く近き將來を信ぜるを思ふと云ひしに事實は其メシア來らず、後にメシアと云ふ觀念を捨てしものであると云ふことになる。然れども之れは　二―四を二四章にある豫言に附隨するものとして、イザヤの第一期に屬するとすれば、イザヤに　將來は大なる憂ひな

り。二二―四の豫言者をなすに憚からざりしも現實のユダの有様を見て、殘れる者歸らんと云ふ事になり、尙引續いてダビデの家の不信に出逢ふて、如何にしても將來に理想的國に理想的メシア王の治むる事なかるべからざるに思ひ至りしとなる。之れ或は其順序であるかも知れない。或は前者の解釋を適當とすべし。政治家なる彼れは、メシア國は如何にしてもメシア王によりて統一せらるべきを思ひしなり。兎に角いづれにしろ、世界的平和と云ふ事が、彼の大なる理想であつた、而して其理想を信ずるを得しもの聖なる神に對する彼の深き信仰に原因せるのである。

斯くてイザヤに取りて大切なる三つの思想、一は聖なる神、二この神に對する人間の態度、信仰に服從にして、不信と驕慢は罪惡なる事。三、メシア的王國の理想、元より神が出發點である、されど彼は唯神を念じて居る丈ではない。直ちに此神と人間社會との倫理的關係を見出さんずんば止まず、されど神を念じ、社會の罪惡を叱咤する丈けでなくして王國建設の大理想を有す、彼は只憤慨の一事をする破壞者にあらず、理想に進めんとする建設家なり。而して此理想は現在の社會以外に出來るにあらず、死して後の世界にあらず、現在の社會に於て實現さるべきなり。即ち現世的なり。此王國建設の大理想はクリスト敎にとりて大切なるものなり、此の事は更に高き意味に於てキリストに於て高調せられたる所なるなり、彼が屢々神の國、王國と云ふのは之である、必ずしも未來の意味ではない、或人は此がキリストの大主張であるとさへ云つて居る、父なる神、罪の救、是は大いに大切であるが、神の國建設、これ我らの忘れてはならぬ更に大切な事である。

見・聞・想

活動寫眞「小公子」を見て

山下久子

何とあの小公子は可愛でせう。誰でもあの一擧一動の無邪氣で考が行屆いて親切なのには泣かずには居られませんでした。母が離れたうちの窓からランプの光に其の子を思ふの時此方は小公子が寢衣のまゝで祖父侯爵と窓端に立つてキッスを母に贈る時の有様は何とも云へない感がいたしまして今でも思出して自然と涙がこぼれます。

彙報

日本基督教女子青年會本部

△臨時中央委員會　十二月十六日午後三時半より神田北神保町新會館内本部事務室に於て臨時中央委員會を開く。出席者は井深花子、山田千代子、津田梅子、星野愛子、三谷民子、ミス、ベーカー、ミス、レーガンの七氏にて、其の議事報告は、(一)本部總幹事ミス、マグドナルト辭任につき後任としてミス、マシウ就任承諾の報告、(二)ミス、マシウは本部總幹事就任の結果東京青年會總幹事辭職の爲め其の後任としてミスペーヂを推選し併せて加藤高子の東京青年會總幹事たる事を承認する事。(三)新總幹事ミス、マシウ今後の働きの爲一應歸米して協議したき旨の要求あり、若し必要の場合には其の爲休暇を與ふる事。(四)現今の處 尚 外國人幹事三人、(大阪の爲め二人、横濱の爲一人)を要す事等を、議定して散會したり。

△新總幹事就任　東京女子青年會總幹事たりしミス、マシウは前項中央委員會の報告承認ありし如く今回本部總幹事に轉任せらるゝこととなり昨年末より本部の經營及事務に從事せらる。尚今後の働の爲一應歸米の上打合の必要ありとて、米國及加奈太女子青年會事業視察を兼ね二三ヶ月間の豫定にて十二月二十七日出立されたり。

△本部の移轉　今回都合により東京市神田區北神保町十四番地東京基督教女子青年會會館内へ移轉したり。本部室は館内の最高層に在りて、設備等も完備しありて執務上萬事好都合なり。

○大阪プール女學校青年會　萬國祈禱週の模樣御報申上ます、十月の末の聖別會や御大典の爲めの休やらで度々聖書研究の時間がぬけましたので例年の如く第一時間のバイブルの時を毎日之に供する事が出來ませんでしたが祈禱週の第一日の月曜日晝食後鳴り渡る鐘と共に會員(有志者)は裁縫室に集り親しく輪を作つて櫻井先生の司會の下に會を催

しました。地圖を廣げて思をアフリカに走せエジプトの爲めに祈る人あり南亞弗利加の爲めに感謝する人有りて誠に良き集であつた事を喜ぶので御座います。火曜日は休でしたので或は樂しき寮舍に或は暖き家庭に於て各自當日の題に基き祈が捧げられました。水曜日は全會員が會長司會の下に祈禱會を開きました。林秋子先生の御講話を伺ひ眞の生命の齎らす幸福と平和の如何に大なるかを覺えつゝ未だ其域に達せざる世人の爲特に女子青年會員の導きつゝある求道者未信者のため等祈りて一時間を過し木曜日は倫理にて集は開く能はざりしも各自は題の下に神の御前に求むる所謝する所が御座いました。翌金曜日には夕食後舍生のみ牧岡先生の司會の下に開會し同先生の御話を伺つてすぐ祈りにうつりました。土曜日には休でもございますし別に集も出來ませんでした如斯にしてプールに於ける會員は惠と歡の中に祈禱週を過したやうな次第でございます。

○札幌女子青年會　當會にては神の御指導の下にかよはきながら勵みつとめて居ります只々少々近況を申上ます先づ去る祈禱週につきまして申上ませう。第一日(十四日)は日曜日でございましたので各自由に祈りました第二日(十五日)は午後二時より北星女學校西洋館にて親睦會を開く事になつて居りましたので其時をさきまして祈禱會といたしまして六人の姉妹の御祈が御座いました、第三日(十六日)からは各自祈りの時を作りまして祈る事にいたしました如何となれば當會は當札幌區の諸種の女學校の生徒によりまして組織されて居りますので、一同每日集りまして祈時を持つと云ふ事は甚だ出來がたひ事でござひますのでやむなく第二日目のみ會員共々に祈りました此樣にして與へられた一週間を世界諸國の主につける友のため主と未だ認ない方々のため歐洲戰亂地になやんで居られる方々のため知る人知らない人のために有益に費す事を得ましたが其後とも猶私共の祈の必要なる事と確信いたして居ります猶當會は只今歐洲戰地に於ける窮民のため各自每

日少しづゝ貯金をいたす事を定め會より少さい箱を與へられまして各々志をむけて居ります又戰地にある人々のためいろ〳〵防寒具の製作にいそしんで居ります又十一月廿八日(日曜日)には一般女子青年を招待いたし此度大典に參列せられました東北帝國大學農科大學學長佐藤昌介氏及同大學教授高杉神學博士の御兩名に御講演を願ふ事となりまして其準備のため喜びに滿て居りますこれ只神の御恵と感謝いたして居ります何卒本部に於ても此北のかよわい當會のために御祈り下さいますやう願ひ上ますと共に私共も益々青年會の發展を祈り上ます。

○金城女學校青年會　萬國女子青年會祈禱週の狀況を御一報申上げ候私共毎日の朝の禮拜が午前八時十分よりこれあり候へばその時間を祈禱會に用ひ毎八時より約三十分間致し候、司會者は役員の中より一人づゝ致し教師も生徒も世界の同胞の爲め、互に風習土地言語は異なるとも皆同じ主につける姉なりとの思ひをもつて一心に祈り實に盛會なりき、日曜日と火曜日は休日なれば各々自宅にて祈る事と致し候朝の淸き空氣に浴して各國の爲御神に祈る事の出來しを皆々喜び居り候。

○宇都宮クリスチャン女學校青年會　當會にては御大典紀念事業として去十一月より毎月一回づゝ病院の方に行き患者の方々に神の御教を傳ふる事をはじめ申候病のために苦む多くの人々は世に何の望みもなく只悲しみの中に日々を送らるゝ時に神の廣大なる御愛を知らしめ又神の御存在を教へて慰むるやうにと會員諸姉の熱心により讃美歌の句や或は聖句又は感話などを一枚づゝの紙に記し花と共にして病人に送ることにいたし候、之により患者方の中主の名を呼ぶ者おこり又もし神の御召しによりて其の病の爲めに世を去る方も神の御旨を知りて喜びの中にあることの出來るやうにと祈り居り候、神の御恵により十一月の最後の日曜日に第一回目を行ひ申候ところまことに都合よく終ることが出來申し候まゝ御喜び下され度候、會員一同熱心に日曜學校

のため働かれ申し候まゝ御安神下され度候神の御祝福を祈り居り候。

○川俣女子青年會休養所

川俣の地は相變らず朝五時より夜間十時までの勞働時間に候特に目下は年末近くの為に殆ど二重の實行よろしく候故工女の夜間の裁縫教授を見合せ居り候晝は四五名の工女參り居り候晝は土曜日は工女の集會を開き十二三名或は十五名位集り申候製糸場よりの一女は夜業ある為め休み居り候小女會として小學校の生徒に毎日午後三時より同五時まで十二三名に編物を教へ居り候小女會の集會を毎日曜日午後二時より開き青年會の集會は毎月二回之れは普通の家庭の娘にて十七八才より二十二三位までにて會員八十八名之あり集會後に簡易なる料理の研究會を開き居り候過る六月より日曜學校生の母の為に母の會を開き申候處只今は三十五名の會員を與へられ隔月集會を待たるゝ様に望まれ居り候凡ての集會は教會と連絡致し其都度牧師の講話を願ひ居り候凡ての集會の上又上よりの御惠の裕なる事を感謝いたし居り候之も偏へに皆々様の篤き御祈りによる事と感謝に堪えず候此頃は工場主よりも時々工場内に於て工女の為めに講話をなす様にと求められ六ケ所の工場に參る事に相成居り候來年四月よりは勞働時間も減縮せらるゝ事なれば共時を一日も早かれと待ち居り候此寒さに火のなき工場に働きつゝある工女の狀況を見る私は自己の幸福を一層感謝に堪えず候申上度事山々之あり候へども拙なき筆につくしがたく餘は次回に申上候何卒あはれなる工女の為めに愛姉様方の御祈のはしにも御ぼえ被下度上よりの御祝福青年會の御働らきの上に裕ならん事を祈り上候。

○捜眞女學校青年會

過日祈禱週において御送り被下候祈禱表に依り各人其處々におきて熱心なるいのりを捧げたる次第に御座候只會員のみならず員外の方々にも出來得る限り御渡し致し候まゝさやう御承知下され度候、十一月十四日（日曜日）午後三時よりフエリス共立及當校の三青年會共同し三谷

民子先生を聘し「祈りの力」の題の下に共立女學校講堂において祈會相開き申候他校の人々をも御招きいたし中々盛大なるあつまりをいたし申候あつまり後同校事務所にて先生と共に親しき談話相かはし更に得るところ多く御座候ひき。

○横濱基督教女子青年會　本會にては十二月十一日東京青年會幹事なる加藤高子氏を聘して午後二時より集會を開催せり、室原夫人司會のものとに開會す、讃美歌、聖書朗讀、祈禱、會員有志の讃美歌合唱、次に加藤幹事の米國視察談、家庭の方面より社會的事業の方面より社交的方面より適切なる實例を上げて、御懇切なる御話ありたり後に林貞子先生のピアノ獨奏續いて横濱支部の報告、一同にて讃美歌を歌ひて閉會す、後雜談の中にお互の交りをあたゝめ散會せしは四時半頃なりき、會する者、三十餘名、小さき集會なりしが温み充つ、而も有益にして力ある集會なりき。

○女子英學塾青年會　待ちに待つた萬國青年會祈禱會の一週間も秋の穩やかな日と共に過す事が出來ました。第一日（日曜日）は神田の新會館に於て催された會へ有志者のみ出席する事に致しました。第二日、第三日、第四日、第五日は午後十二時半より本校講堂に於て與へられた題目の下に祈禱を捧げました。第五日と第六日は學校の休日であつた爲朝凡ての事を始むる前に即ち八時半より祈禱會を催しました。出席者は二十名計りで御座いましたが、私共に取つては意味深き會でありました、といふのは常に忙しい學科にのみ心を奪はれて居る私共は見た事もない、或は餘り聞いた事もない國々の人々或は事業に深切なる言葉、又は短いが眞心のこもつて居る祈禱に於て費す所の各自の內の僅かなる瞬間は唯神樣の御目より御覽になると、彼が記錄するに價値のある、又意味深き時であつた事を敎へられたので御座います。

消息

〇松宮信子　十一月二十八日九段教會に受洗。

〇三田靜子　十二月十五日牛込聖バルナバ教會に於て手塚歌之介氏と結婚。

〇ミス、アズグート　十二月二十日牛込田町の住宅に於てダーウヰー氏と結婚、尚一月よりは牛込原町一丁目十七番地に住居。

〇高橋玉枝子　十一月下旬養子を迎へらる。

〇鈴木ちゑ子　十二月下旬福井市に於て受洗の由。

〇會友會費領收（本部報告）

金壹圓也

八木　順子（大正四ノ六―同五ノ五）岩崎　高子（大正四ノ五―同五ノ五）

金貳圓也

高田　常代（大正五ノ一―同五ノ三）ミセスフライ（大正五ノ三―四ノ二）

〇雜誌（女子靑年界）代金領收

金七拾錢也

高垣　きよ（大正四ノ二―同五ノ一〇）某　夫　人（大正四ノ一〇―同五ノ一〇）

横澤　つぎ（大正四ノ一〇―同五ノ九）樋地　みや（大正三ノ三―同四ノ二

駒澤　みち（大正四ノ八―同五ノ四）河野　幸子（大正四ノ六―同五ノ五）

安村　すゑ（大正四ノ六―同五ノ五）本間　花江（大正四ノ七―同五ノ六）

吉山　いく（大正四ノ一〇―同五ノ九）坂本　壽子（大正四ノ一〇―同五ノ九）

本多　春美（大正四ノ一〇―同四ノ九）長谷　まき（大正五ノ四―同六ノ三）

川上　ちか（大正四ノ一〇―同五ノ九）莊原　秀子（大正四ノ一―同年ノ一）

武市　松子（大正四ノ一〇―同五ノ九）木岡　みね（大正四ノ三―同五ノ二）

石原　ます（大正四ノ八―同五ノ七）渡邊　けい（大正四ノ三―同五ノ二）

星野　須磨　大正四ノ四―同五ノ三）靜岡靑年會（大正四ノ二―同五ノ一）

搜眞女學校靑年會（大正四ノ二同五ノ一）

金壹圓四拾錢也

松岡　つれ（大正四ノ三―六ノ二）新島　榮子（大正四ノ十―六ノ九）

金四拾五圓也

米國櫻府靑年會（大正四年自一月至四月各百部代

金五拾錢也

安羅岡むら（大正四ノ七―五ノ一）

金四圓五拾五錢也　共立女學校（大正四年十一月分六十五部代）

金貳圓貳拾錢也　中村玉子（大正四年九、十、十一月分十部代）

謹んで新年の御祝詞申上候

此の新なる年に於て會員諸姉が豊なる祝福の下に御多幸ならん事を念じ上申候

大正五年一月一日

在米國新約克　河井道子

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(Joshi Seinen Kai)

Volume XIII January, 1916 Number 1

Miss A. Caroline Macdonald, who has been for ten years National General Secretary of the YWCA in Japan, resigned September first. She has been for the past few months in Canada and will return in January. She will remain in Japan to do evangelistic work. Under her guidance and inspiration the first difficult foundations of the Association have been laid. In the ten years twenty-four Associations have been formed, four of these city Associations in Yokohama, Tokyo, Morioka and Sapporo. The entire membership is 2668. The monthly magazine has 1475 subscribers. An annual summer conference is held in July. Miss Michi Kawai, now studying in New York at the National YWCA training school, has for the past three years given half time to the national work. Largely through Miss Macdonald's efforts the Tokyo Association has now two student dormitories and a new central building, besides the rented houses for neighborhood and Travelers' Aid work. She has also been the leader in making plans for opening work in Osaka, Kyoto and Sendai. Much as she will be missed in the YWCA it is fortunate that she can continue to labor in Japan.

The National Committee of Japan has moved its offices to two rooms on the third floor of the new Tokyo Association, 14 Kita Jimbocho, Kanda, Formerly the offices have been in the residence of the foreign secretaries in Ushigome-ku. In the past there has been a good deal of confusion in the minds of many people as to the distinction between the national work and the Tokyo work. The National Committee supervises all Association work done in the various cities and schools, helps to organize new work when desirable, but in the past ten years of the Association's activity in Japan the largest piece of work has been that of the Tokyo city Association. The efforts of the committee and of the secretaries have been concentrated on the Tokyo work, although the student Associations both in and out of Tokyo and the Yokohama city Association have received regular attention. However the National Committee has nothing to do with the management of the Tokyo Association which has its own executive board. With the completion of the new central building the first era in the history of the Association is closed, and the second has begun with the work of the Tokyo city Association and of the National Committee quite distinct from one another, although the National Committee has rented two offices in the building of the Tokyo Association.

On the twentieth of December Miss Margaret Matthew took up her new work as national general secretary with Miss Kawai of the Association in Japan. Since she first came to Japan Miss Matthew has been general secretary of the Tokyo city Association and she has seen it through the completion and opening of the new central building.

At a special meeting of the National Committee held in December Miss Mary Page was appointed general secretary with Miss Taka Kato of the Tokyo City Association. Miss Page has formerly been Associate secretary of the Tokyo Association.

On the twentieth of December Miss Marion Osgood, who has been studying in the Japanese Language School during the past year, was married to Mr. Kenneth W. Dowie of the Canadian Presbyterian Mission in Formosa, who has also been in the Language School. Miss Ruth Emerson of the YWCA was maid of honor, and Rev. L.C.M. Smythe th best man. Rev. B.T. Schwab of the Evangelical Association performed the ceremony. After the marriage service about one hundred fifty friends called to meet Mr. and Mrs. Dowie. After spending the holidays in Formosa, Mr. and Mrs. Dowie will return to Tokyo where they will complete the year in language school.

NATIONAL COMMITTEE

Headquarters : 14 Kitajimbocho, Kanda, Tokyo.
Telephones : Residence, Bancho 4563 ; Office, Honkyoku 598.
Cable and telegraph address, Emissarius, Tokyo.
Furikae chokin, Tokyo 23723.

Mrs. Hana Ibuka, chairman
Dr. Kei Okami, Vice-chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inouye, Treasurer
Miss Michi Kwai, Active Member World's Committee
Miss Ume Tsuda
Miss A. B. West
Miss Uta Suzuki
Miss Kita Hasegawa
Miss Sarah Ellis
Miss Chiyo Yamada
Mrs. K. W. Clement
Miss Ai Hoshino
Miss Jun Kido
Miss Matsu Okonogi

NON-RESIDENT MEMBERS

Madame Asa Hirooka, Osaka
Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss M. F. Denton, Kyoto
Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Yoshi Kajiro, Okayama
Miss K. Tristram, Osaka
Miss Susan Searle, Kobe

SECRETARIES

Miss Michi Kawai, National
Miss Margaret Matthew, National
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Mary Page, General, Tokyo
Miss Taka Kato, General, Tokyo
Miss Emma Kaufman, Associate, Tokyo
Miss Mary Baker, General, Yokohama

各組教授開始

左の各組教授を一月十一日より開始す。志望の方は御申込ありたし。

英語會話教授

月　水　金　自午後三時半—至同四時半
同　自午後七時半—至同八時半
教師　ミス、イーストレーキ

體操教授

月　木　自午後三時半—至同四時半
火　自午後七時半—至同八時半
教師　ミス、マクロイ

西洋料理教授

火　自午後二時—至同四時
教師　ミス、カウフマン
水　自午後二時—至同四時
教師　小此木武子

生花教授（池の坊）

火　自午後二時半—至四時半
教師　渡邊のぶ子

簿記珠算教授

大正五年二月より開始す
教師　渡部喜卯馬

第三寄宿舎

定員十六名、キリスト教家庭的寄宿舎にして、自由自治のものなり。學校教師其の他の職にある婦女子の入舎を諾す、場所は神田區北神保町十四本會館の一部にあり。

仕事會

是は御女中さん方の御便宜を圖り、一週二度程裁縫手習等を教授す。一月十日以後開始す。

聖書研究諸組

學校別にして毎週一度づゝ研究の組を設く。規則書其の他申込用紙御入用の方又は詳細の事は本會事務所に就き御照會ありたし。

東京市神田區北神保町十四番地

東京基督教女子青年會

電話本局五九八番

新春の好伴侶

□野口精子著

歌集 夕ばえ

忽ち再版

定價七拾錢 郵税金八錢

□安井哲子著

久堅町にて

定價壹圓 郵税金八錢

□五來素川譯

小説 未だ見ぬ親

増補縮刷

定價壹圓 郵税金八錢

□林静太譯

婦人の典型

定價壹圓 郵税金八錢

□海老澤亮著

家庭と修養

上製九十錢 並製七十錢 郵税各八錢

板元 東京京橋 尾張町 警醒社書店 振替東京 五五參番

普通學部（修業五ヶ年高等女學校程度）

家政學部（修業三ヶ年新校舍計畫中）

兩部共尋常小學卒業者は無試驗にて一年へ入學許可

生徒募集

文部大臣指定

私立

女子聖學院

東京府下
瀧野川中里
山手線駒込
驛ヨリ約三丁

高等家政學部（修業一ヶ年入學資格高女卒業者）

音樂裁縫和洋割烹專修隨時入學許可

家庭的寄宿舍の設あり

長崎市　**活水女學校**

西暦一千八百七十九年　創立

日本に於て婦人に最高の教育を授くる所なり。

高等專門部。聖書研究部。幼稚園保姆傳習部。音樂部。手藝部等を設く。

日本及支那、朝鮮、ロシヤ其他各國人の入學を許可す。

本校に於て教授用として蓄音機、幻燈機械、望遠鏡要す。

尚詳細は校長に宛て御照會あれ。

生徒募集

私立　**駿臺英和女學校**

高等普通科（高等女學程度）　各級缺員あり

英語、オルガン、ピアノ科、割烹

東京市神田區駿河臺袋町十番地

謹て大正五年の春を迎ふるに當り舊年中の御厚情を謝し、尚本年も倍舊の御愛顧を奉希候。

今春新流行の粋を集めたる半襟、帯揚、腰帯、帯じめ、羽織の紐等新年贈答用として頗る格好の品多く取り揃へ置申候。

尚會員諸姉に對しては、特に御便宜を圖り可申候

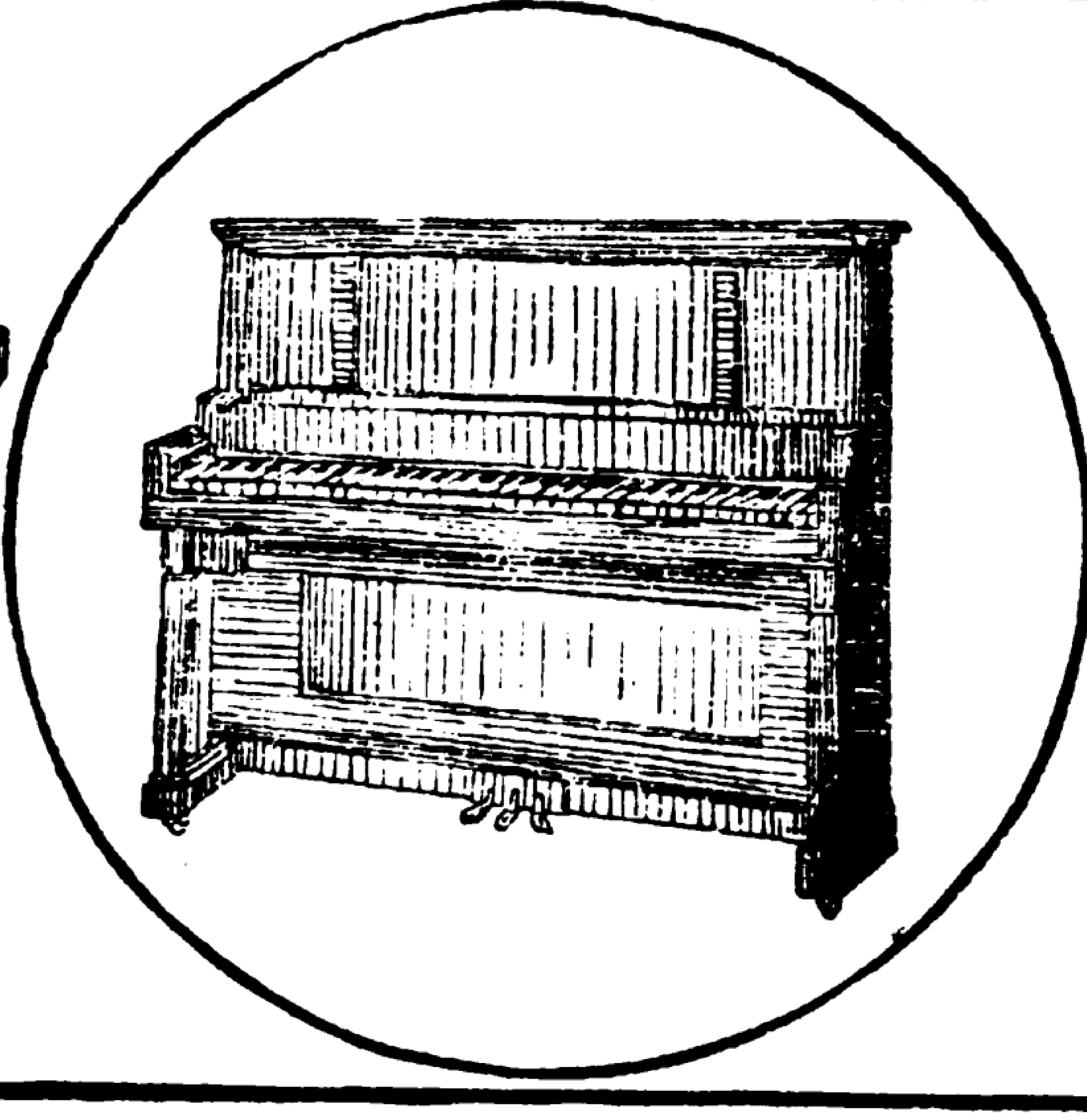
神田一ッ橋通

二京商店

代表者

東京女子青年會會員　石井滋世







日本基督教女子青年會支部及其他位置

東京基督教女子青年會	東京市麴町區三番町四一
廣島女學校青年會	廣島市上流川町
同志社女學校青年會	京都市上京區今出川通
プール女學校青年會	大阪市西區川口町一二
ウキルミナ女學校青年會	大阪市東區玉造
札幌女子青年會	札幌區北四條北星女學校内
宮城女學校青年會	仙臺市東三番町
クリスチアン女學校青年會	宇都宮市二條町七二
フエリス女學校青年會	橫濱市山手町一七八
共立女學校青年會	橫濱市山手町二一二
女子英學塾青年會	東京市麴町區五番町一六
女子學院青年會	東京市麴町區上二番町三三
青山女學院青年會	東京市青山南町七ノ一
女子傳道學校青年會	東京市小石川區指ケ谷町八四
神戸女學院青年會	神戸市山本通四丁目
金城女學校青年會	名古屋市東區白壁町四丁目
盛岡女子青年會	盛岡市内丸タピング方
德島女子青年會	德島市富田浦仲町ミスリツン方
橫濱女子青年會	橫濱市本町五一
搜眞女學校青年會	神奈川一本松
弘前女學校青年會	靑森縣弘前市代官町
東洋英和女子學校青年會	東京市麻布鳥居坂八
梅花幼稚園保姆傳習所青年會	信州上田丸堀
第一寄宿舍	東京市牛込區納戸町四五
第二寄宿舍	東京小石川區水道町二八(安藤坂)
好友園(幼稚園)	東京市小石川區金富町五七
旅行者の友事務所	東京市本鄕湯島天神町一ノ二四

新玉の年の始の御壽

芽出度申納候

尚舊來に倍する御同情と御庇護とを賜はり本誌の前途を御導き下され度祈上候

大正五年一月一日

日本基督教女子青年會

「女子青年界」編輯部

一同

本誌定價

一部(郵共)	金七錢
一ケ年分	金七拾錢
海外	金拾壹錢
	金壹圓廿錢

廣告料

一頁	金六圓
半頁	金三圓五十錢
四分ノ一	金貳圓
一行	金貳拾錢

大正四年十二月廿八日印刷納本

大正五年一月一日發行

發行所　東京市神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會

編輯兼發行人　東京市神田區北神保町十四番地　河井道子

印刷人　東京市芝區櫻田和泉町七番地　前川吉治郎

印刷所　東京市芝區櫻田和泉町七番地　三成舍

日本基督教女子青年會

目的

日本全國の諸學校及び市邑に於ける青年女子の間に基督教女子青年會を設立し其一致聯合を圖り以て萬國基督教女子青年會と連絡する事

左の事項を奬勵す

青年女子の間に基督教的智識を普及し之を導き基督耶蘇を救主として信奉せしむる事

青年女子の靈的生命を涵養し献身的行爲を勵し其智識社交身體の發達を圖る事

青年女子をして萬國に基督の王國を擴張せしむる事

會友

基督教女子青年會未設の地或は學校に於て本會の主旨を賛助し事業を奬勵せんと欲する者を以て本會の會友とす

會友の種類及會費は左の如し

通常　年　金壹圓　維持　年　金貳圓以上

會友には本會機關雜誌「女子青年界」を送附す

會友たらんと欲する者は本會本部に申出べし

事業一班

巡廻訪問　本會幹事を派遣して支部を奬勵し或は地方を巡廻視察し本會の發展を圖る

出張講演　廣く一般女子の需に應じて講師を派遣す

機關雜誌　月刊「女子青年界」を發行し靈性智識の資に供す

紹介部　一般女子のため諸般の紹介をなす

寄宿舍　東京市内に青年女子の爲監督寄宿舍を設く將來他の都市にも設立せん事を期す

宿泊所　外國婦人の要求に應じ併て日本の眞相を紹介す

夏季修養會　每年夏季山水明媚の勝地に開會し專ら女子の修養を圖る

旅行者の友　地方より上京する婦女子の保護を要する者の救濟保護に任ず

社會部　所屬幼稚園有り主として下級社會の幼兒を收容し且其家庭の傳道啓導につとむ

中央委員

委員長　井深花子

副委員長　岡見恵子

記錄書記　三谷民子

會計　井上友子

萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子

委員

津田梅子（東京）
エ、ピ、ウエスト（東京）
鈴木歌子（東京）
小此木松子（東京）
長谷川喜多子（東京）
野星愛子（東京）
サラ、エリス（東京）
イ、タレメント（東京）
山田千代子（横濱）
藤田貞子（横濱）
城戸順子（大阪）
廣岡淺子（大阪）
ケー、トリストラム（大阪）
エム、エフ、デントン（京都）
佐伯小糸（京都）
松田道子（京都）
エス、ソール（神戸）
上代淑子（岡山）

役員

總幹事（本部）
同（同）
書記（同）
總幹事（東京）
同（同）
特志幹事（同）
幹事（横濱）
事務員（本部）
事務員（東京）
事務員（横濱）
旅行者の友係
幼稚園主任保姆
幼稚園助手
第一寄宿舍舍監
第二寄宿舍舍監
第三寄宿舍舍監
宿泊所取締

河井道子
エム、エル、マシウ
アール、レーガン
エム、ペーヂ
加藤高子
イー、アル、カウフマン
エム、ペーカー
河口正子
湯田みの
大香久子
伊藤菊子
林ふさ
松崎滿喜
大槻愛子
永野睦子
門倉ふじ
大西絹子
有田玉子
ミス、ダルトン

東京市神田區北神保町十四番地

日本基督教女子青年會本部

女子青年界第拾參卷第壹號

大正四年十二月廿八日印刷納本大正五年一月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可